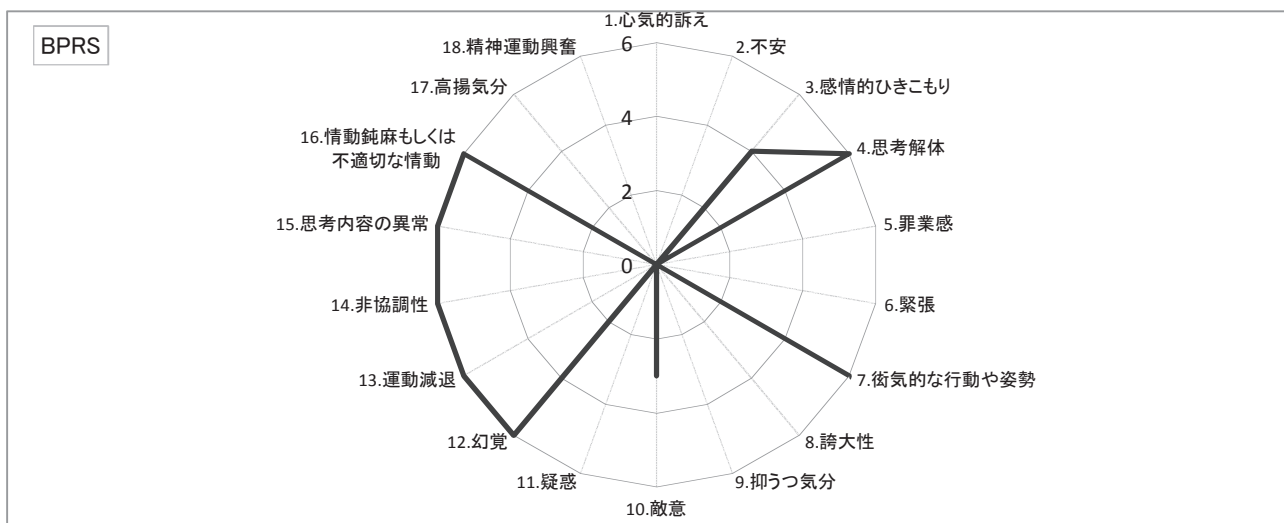
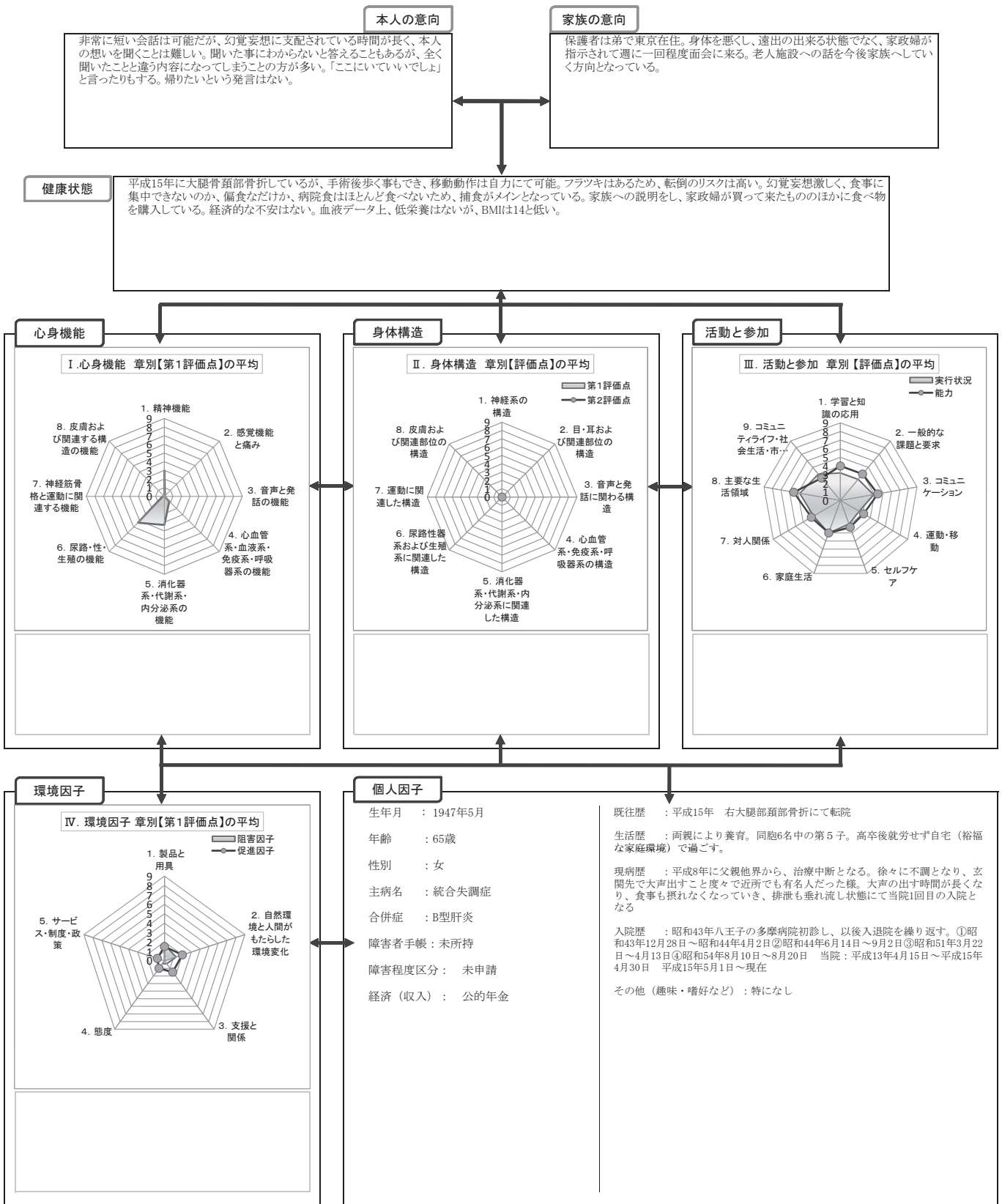


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

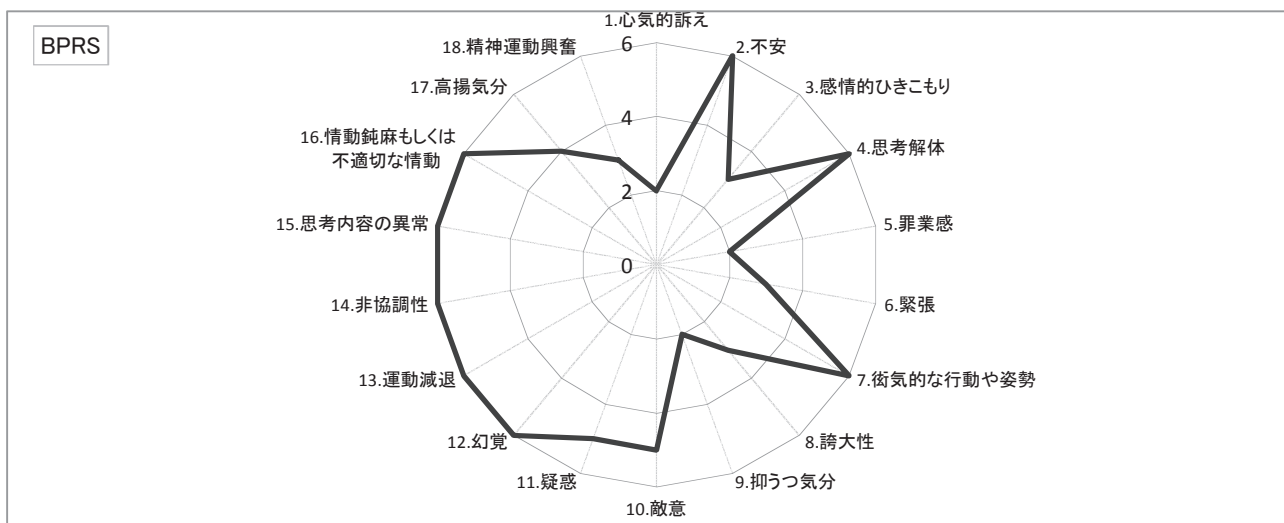
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	4: やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3: 中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	6: 非常に高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6: 非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6: 非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

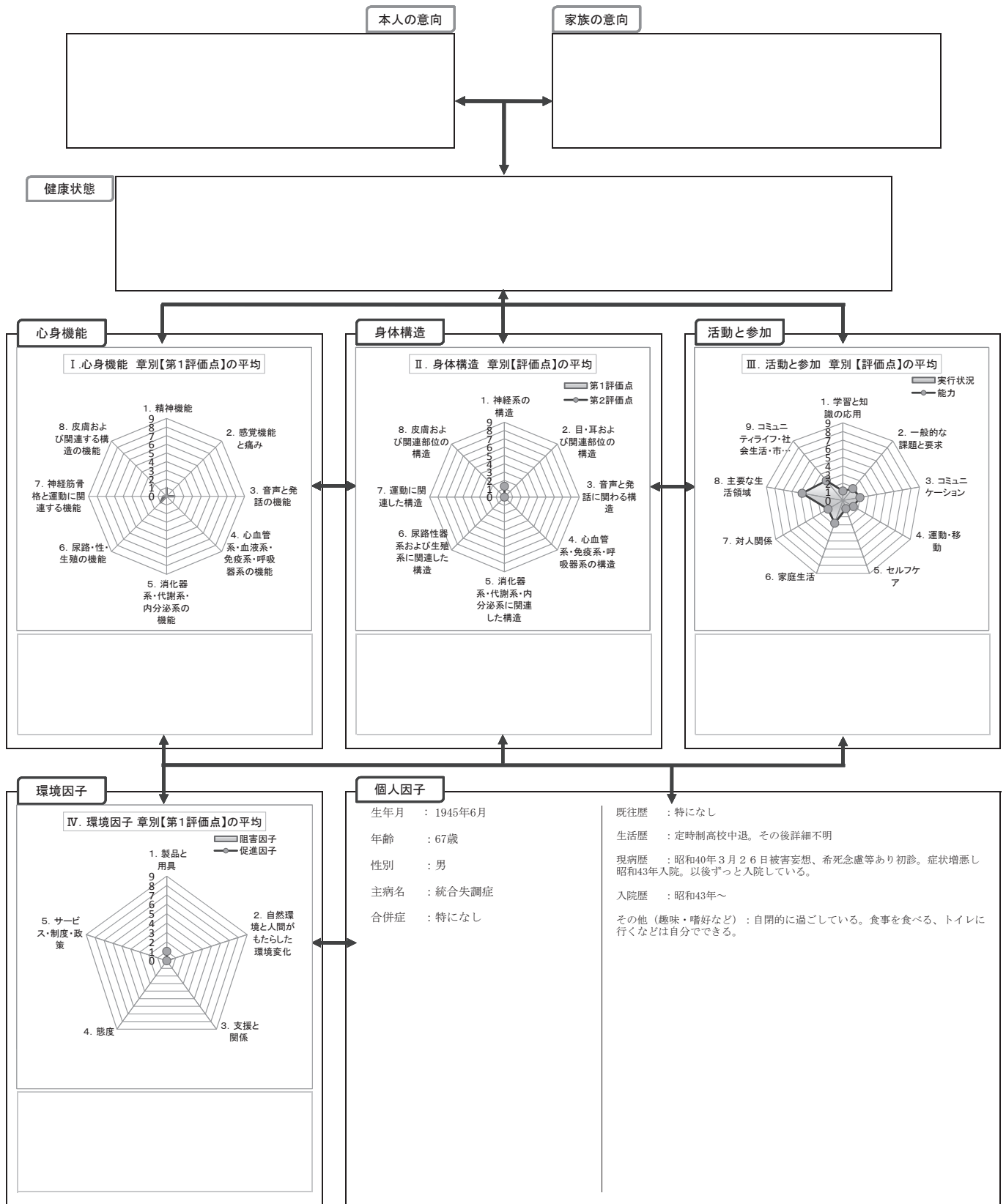




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

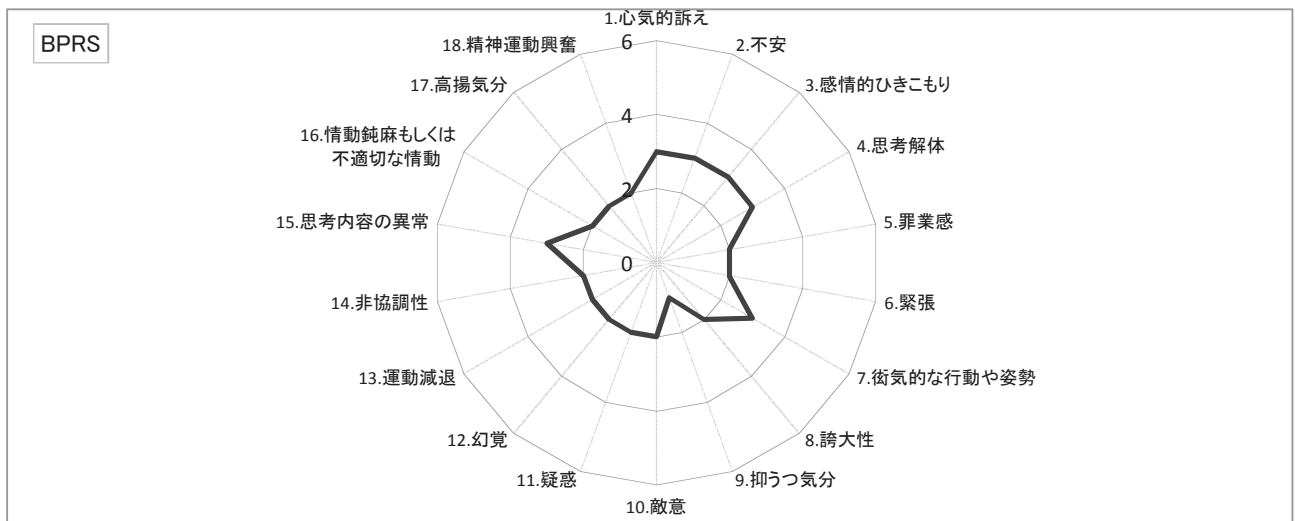
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	6:非常に高度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	3:中等度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	2:軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3:中等度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	2:軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	5:高度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	5:高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	6:非常に高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6:非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	4:やや高度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3:中等度

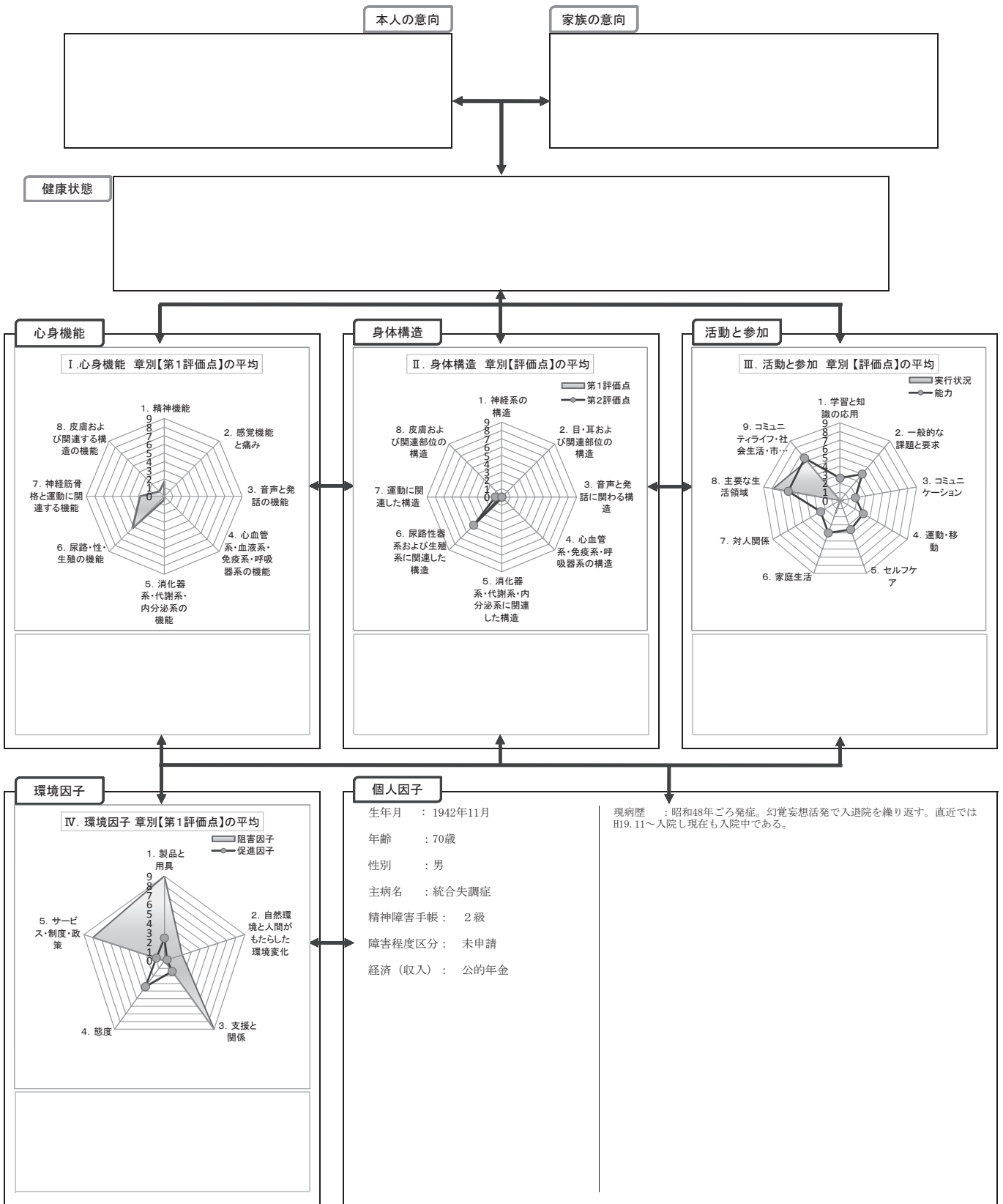




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

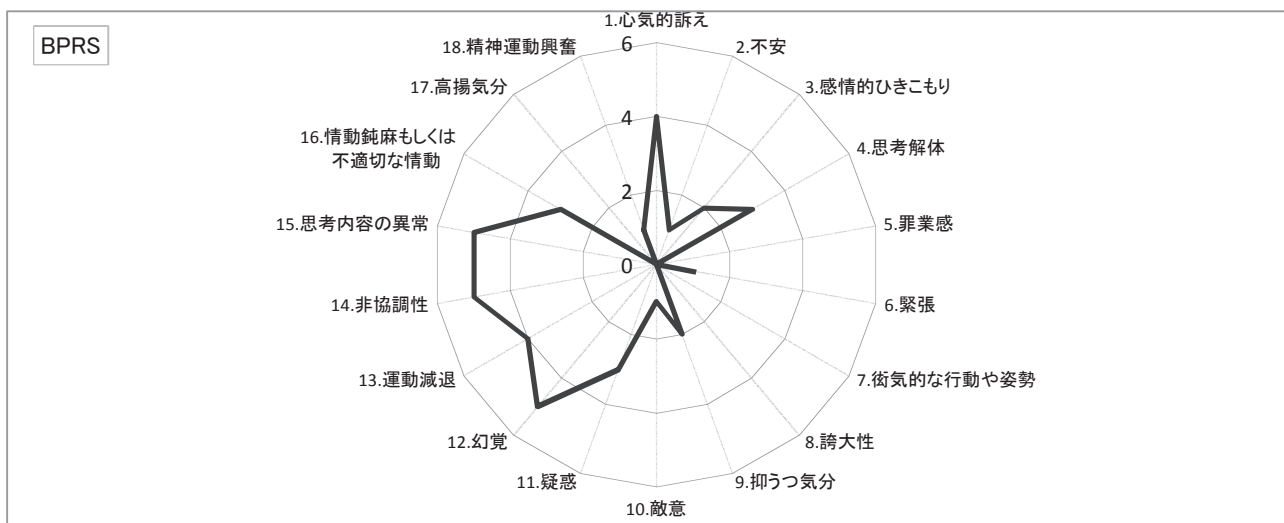
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	3: 中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3: 中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	3: 中等度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3: 中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	2: 軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2: 軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	2: 軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1: ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2: 軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	2: 軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2: 軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	2: 軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2: 軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3: 中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	2: 軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2: 軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	2: 軽度



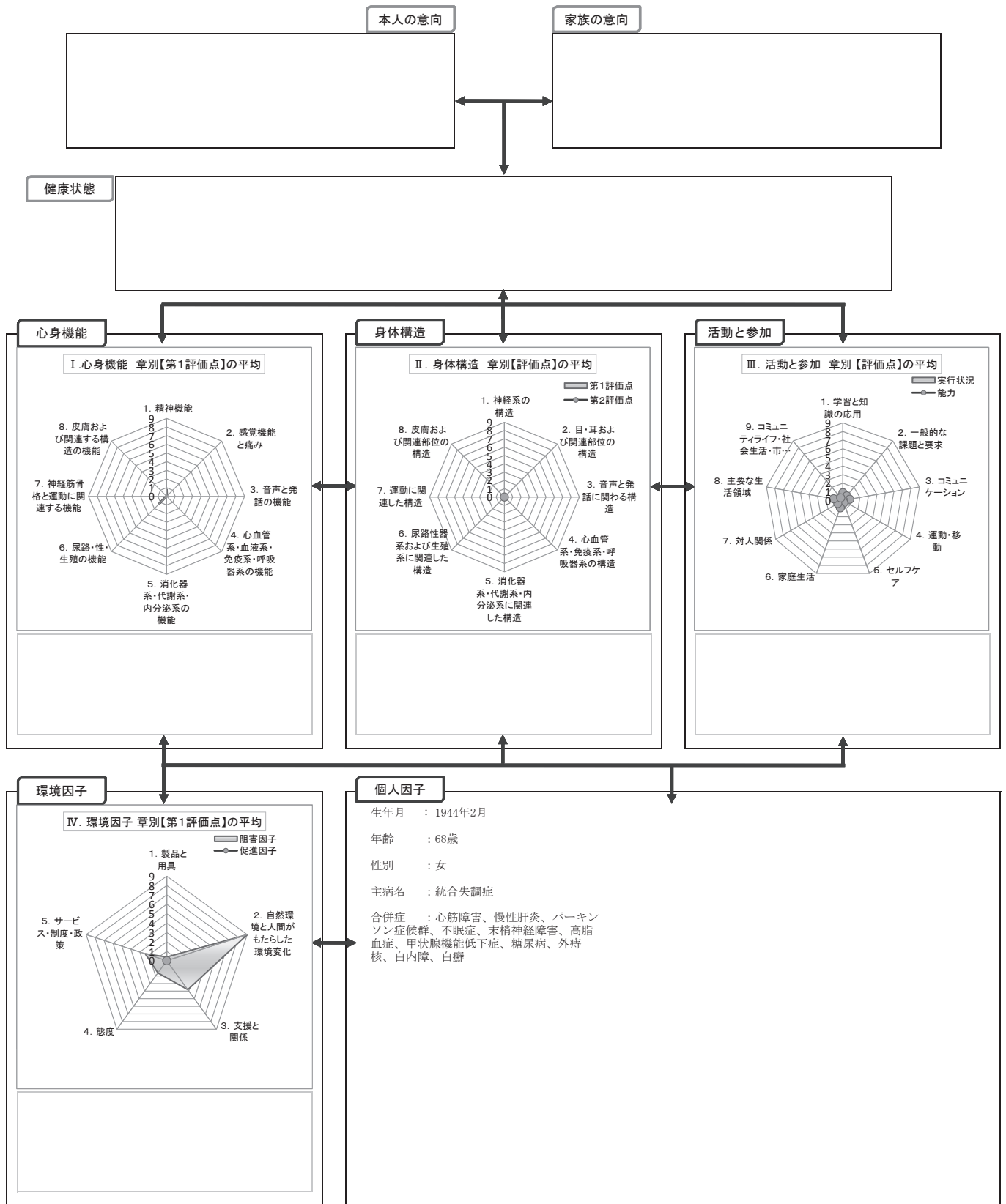


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	4: やや高度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1: ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2: 軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3: 中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	2: 軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1: ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	3: 中等度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	5: 高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4: やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	5: 高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	5: 高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3: 中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1: ごく軽度

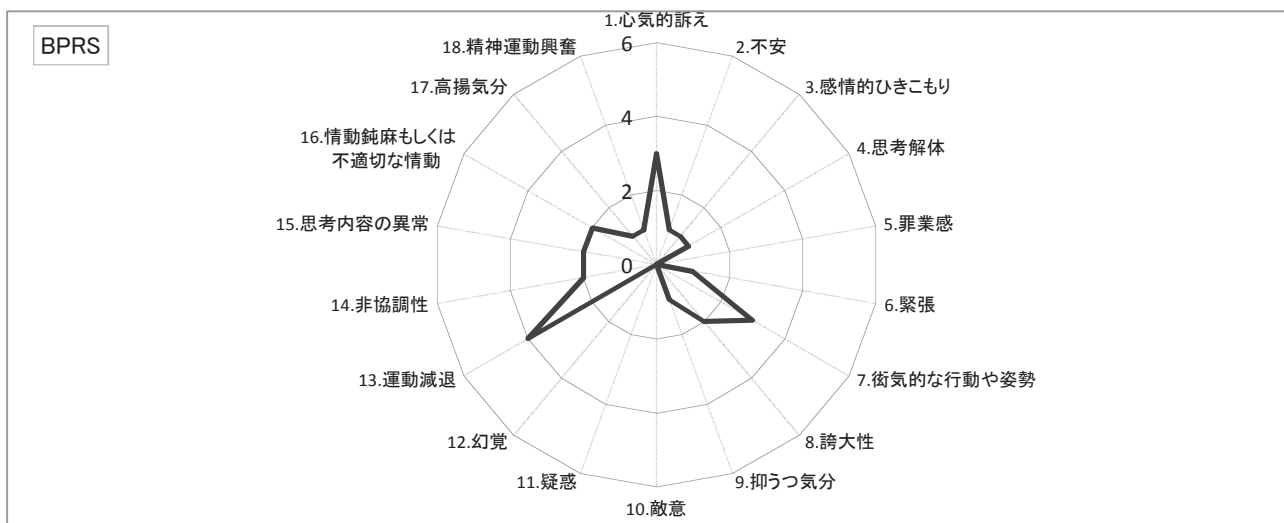


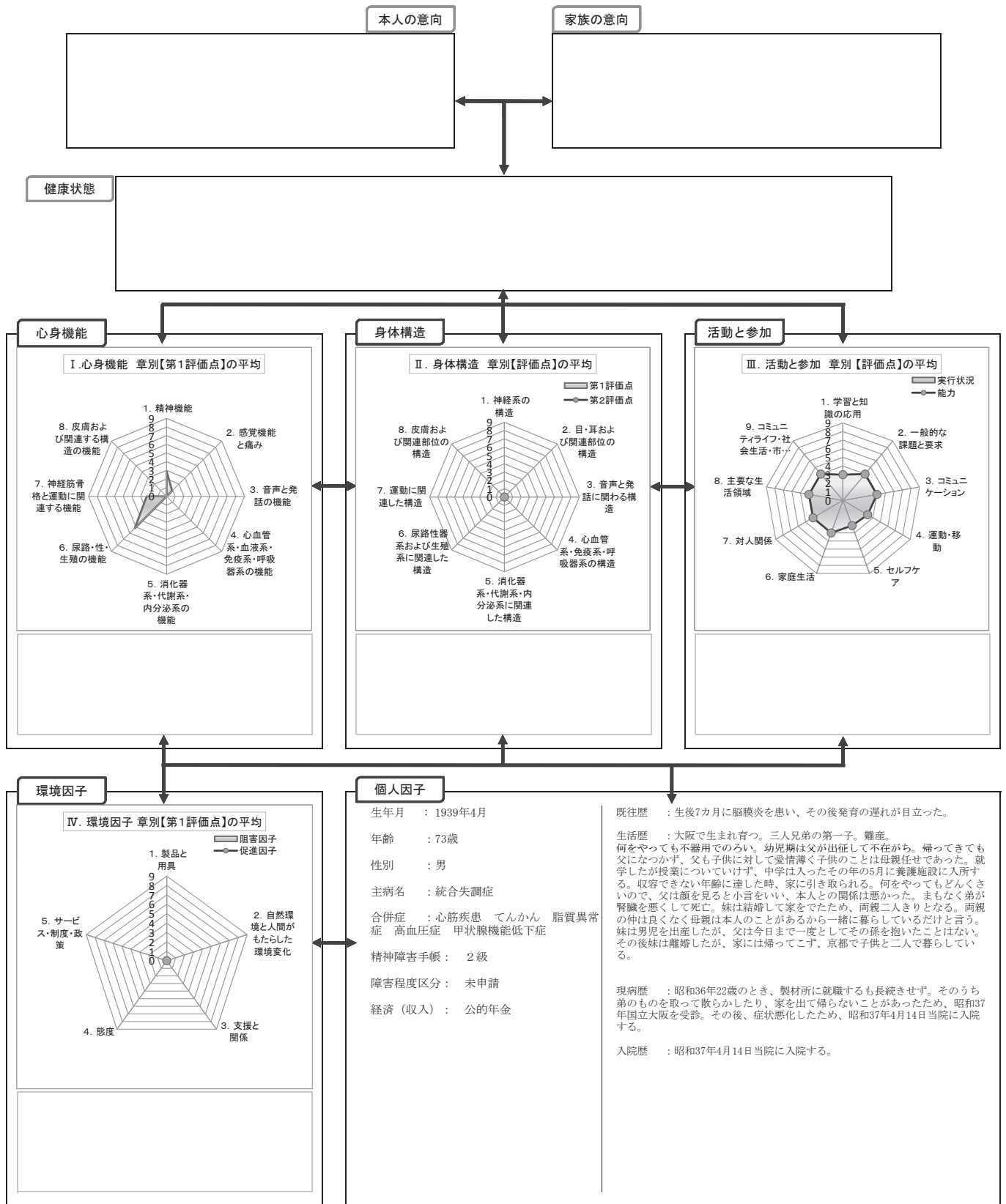




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

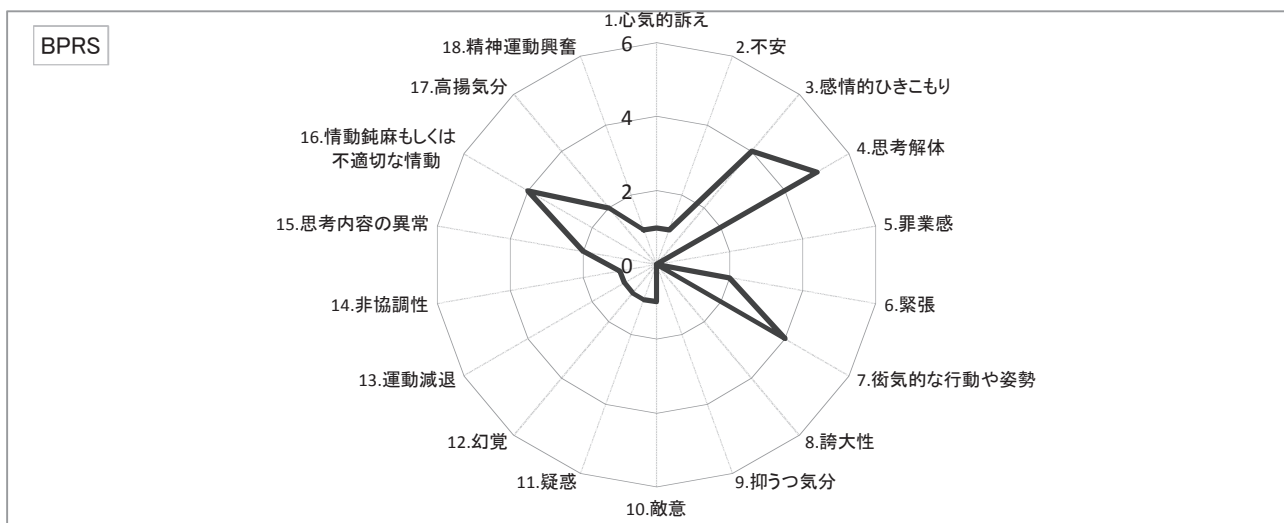
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体 の健康状態 について の関心 の程度。身体 の健康状態 に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	3: 中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1: ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	1: ごく軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	2: 軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1: ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4: やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2: 軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	2: 軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	2: 軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	1: ごく軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1: ごく軽度

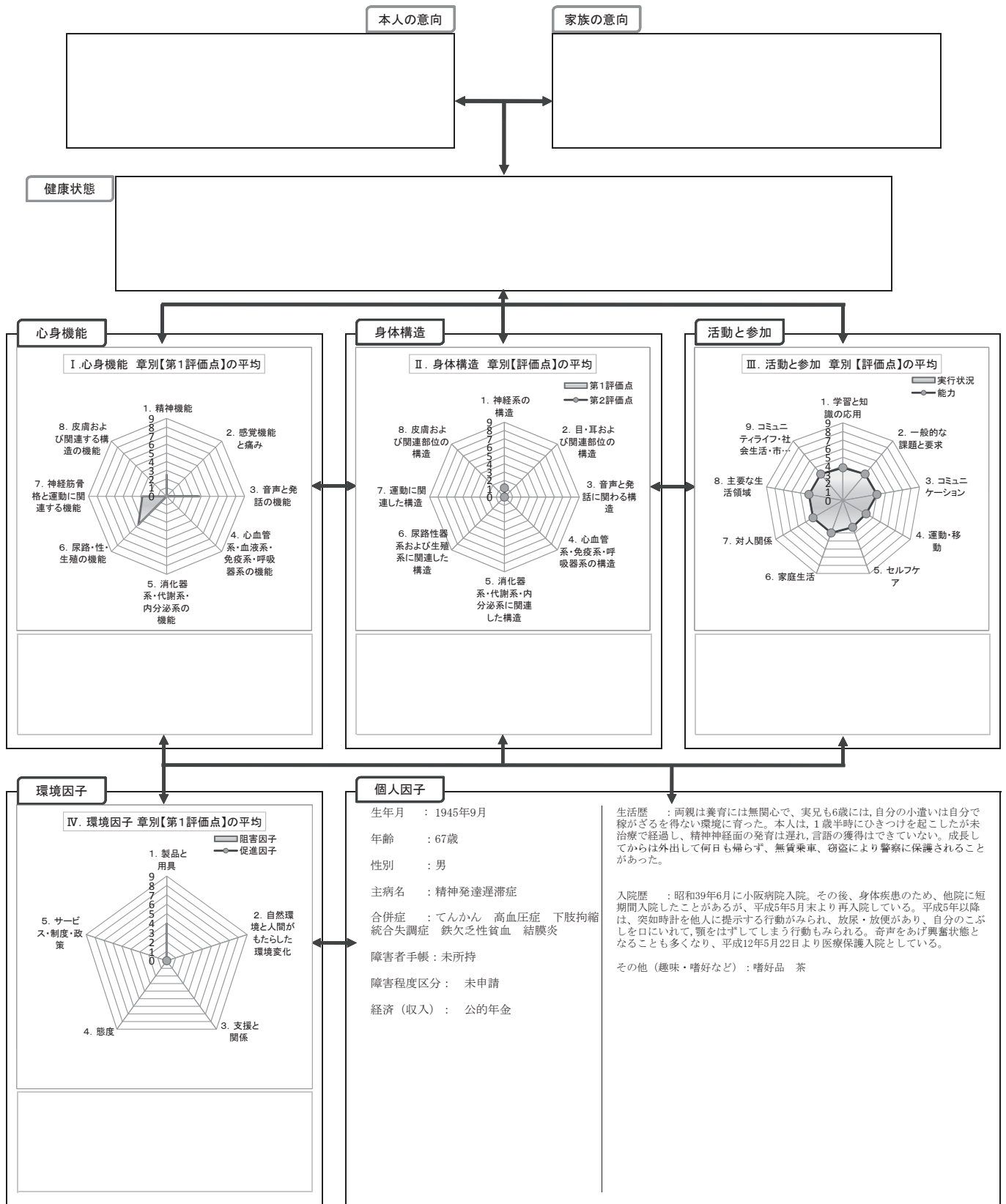




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

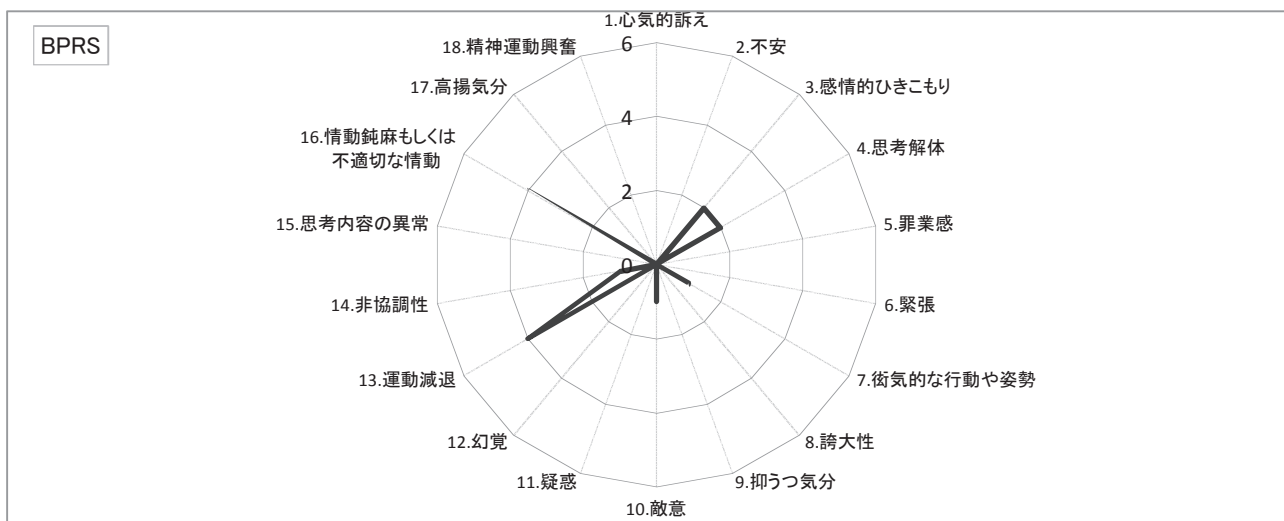
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	4:やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	5:高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2:軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	4:やや高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1:ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	1:ごく軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	1:ごく軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	2:軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	4:やや高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度

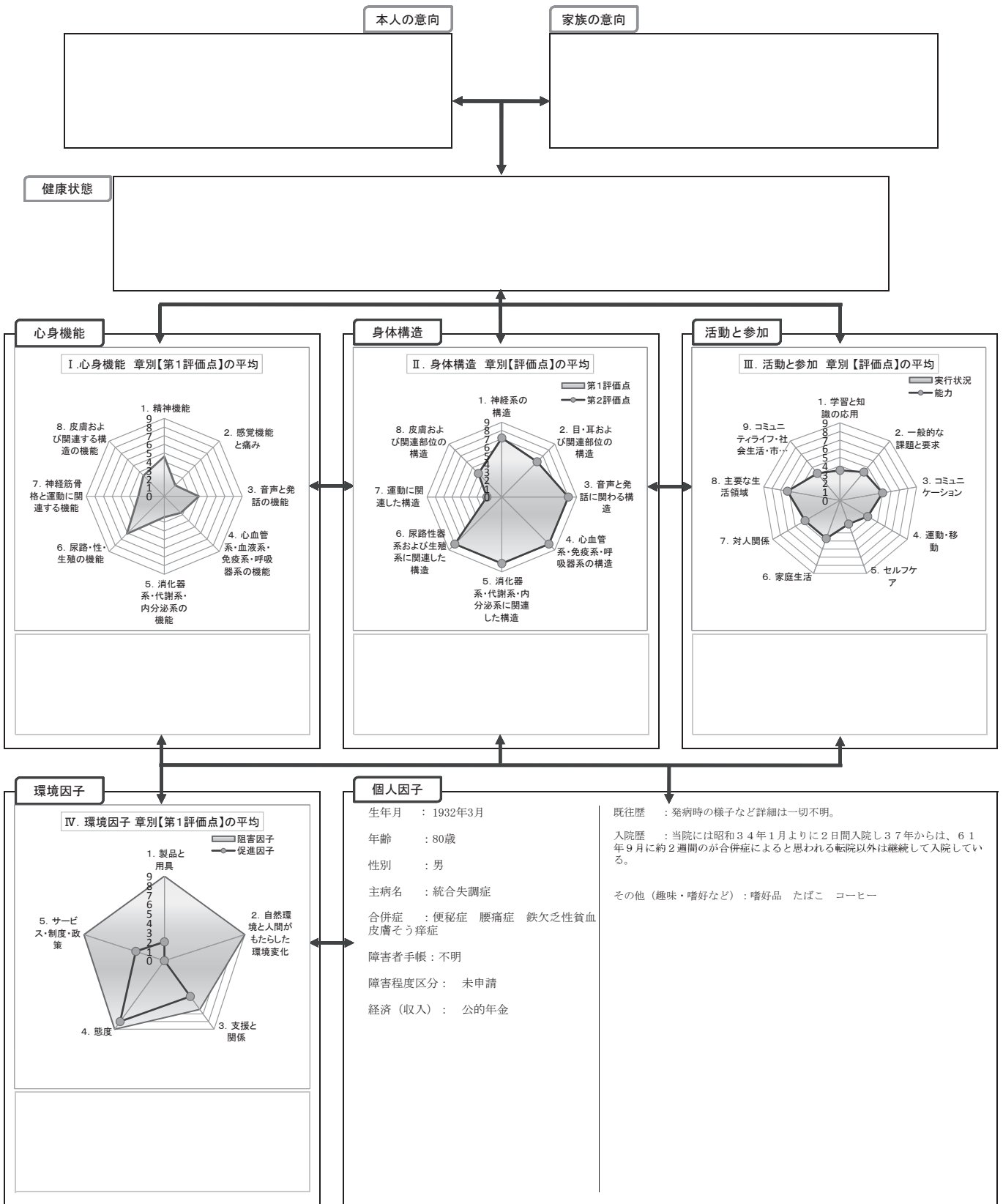




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

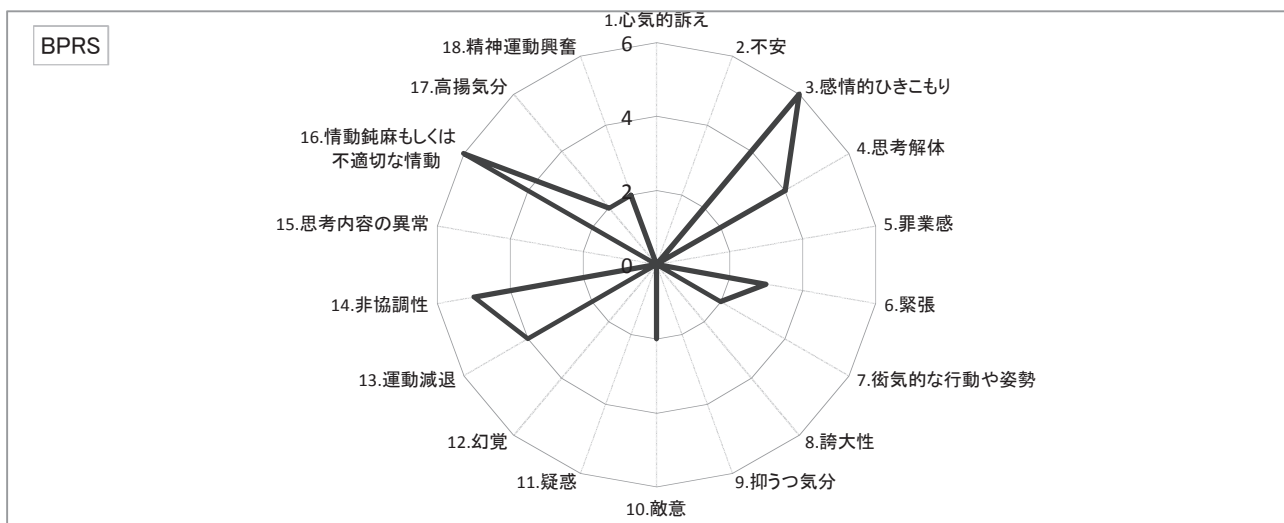
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2: 軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2: 軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1: ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4: やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	1: ごく軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	4: やや高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし



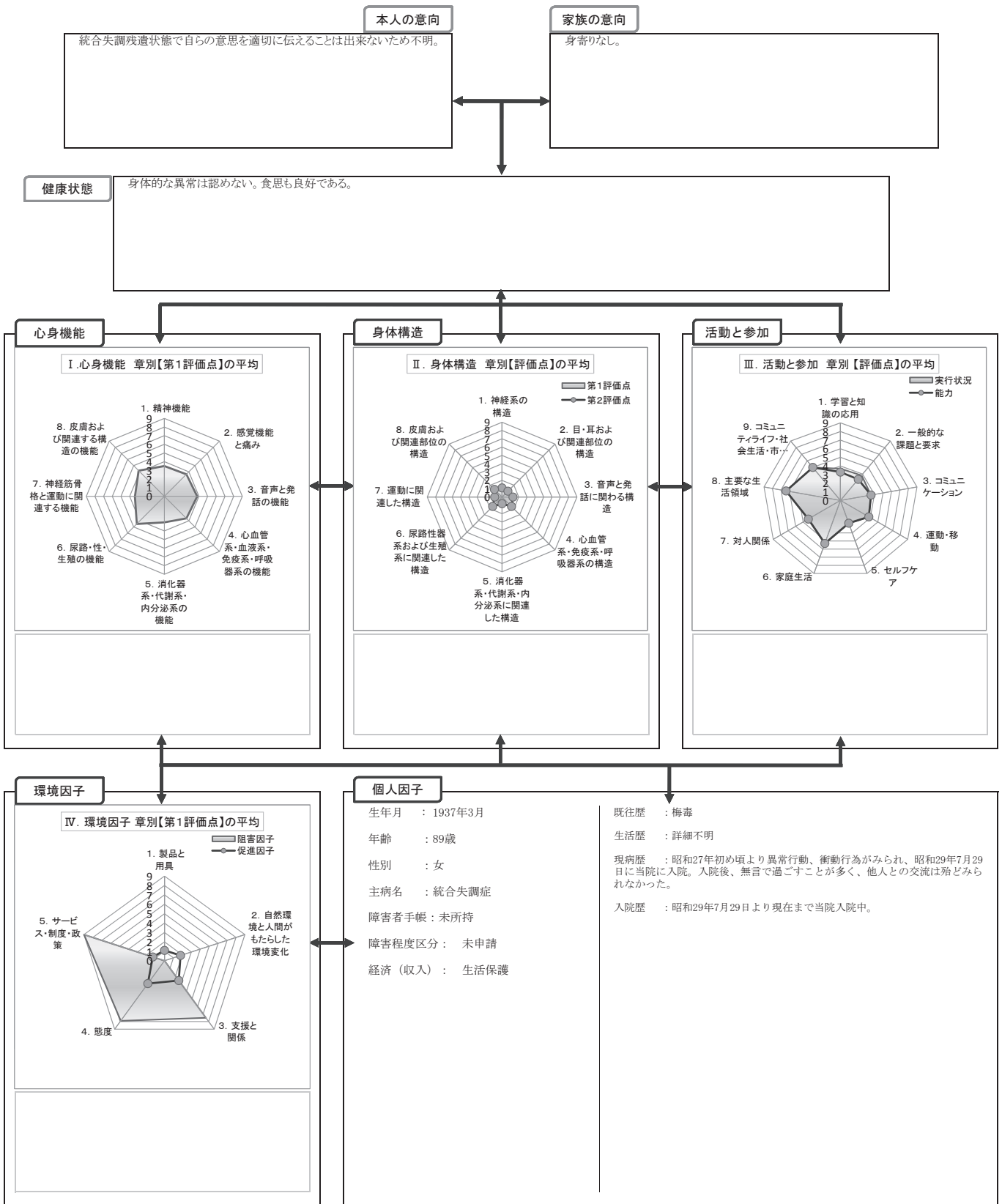


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6: 非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4: やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2: 軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2: 軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4: やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	5: 高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2: 軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	2: 軽度

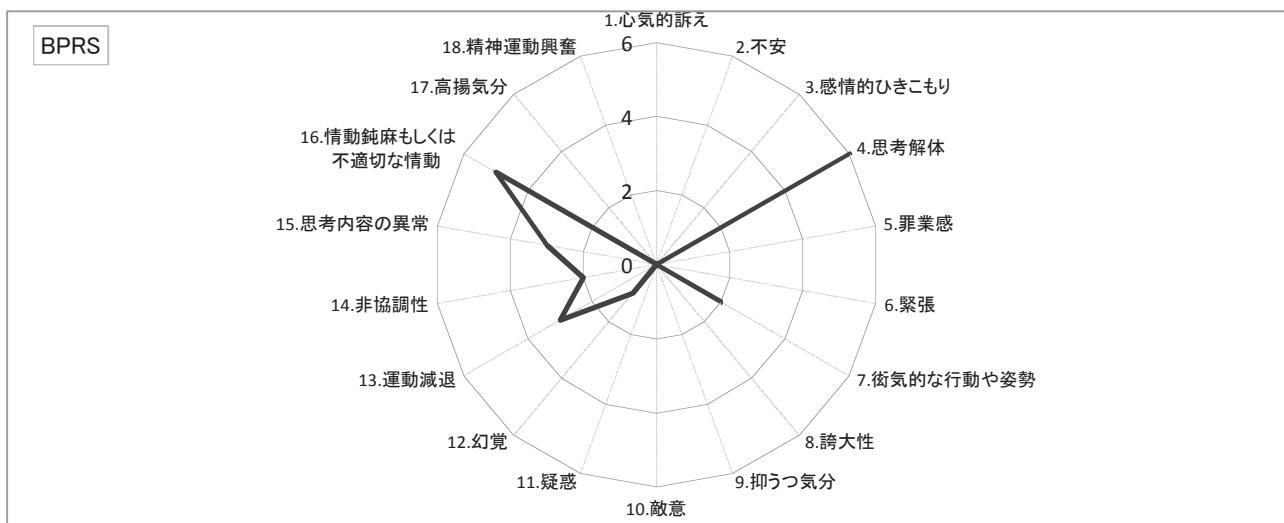


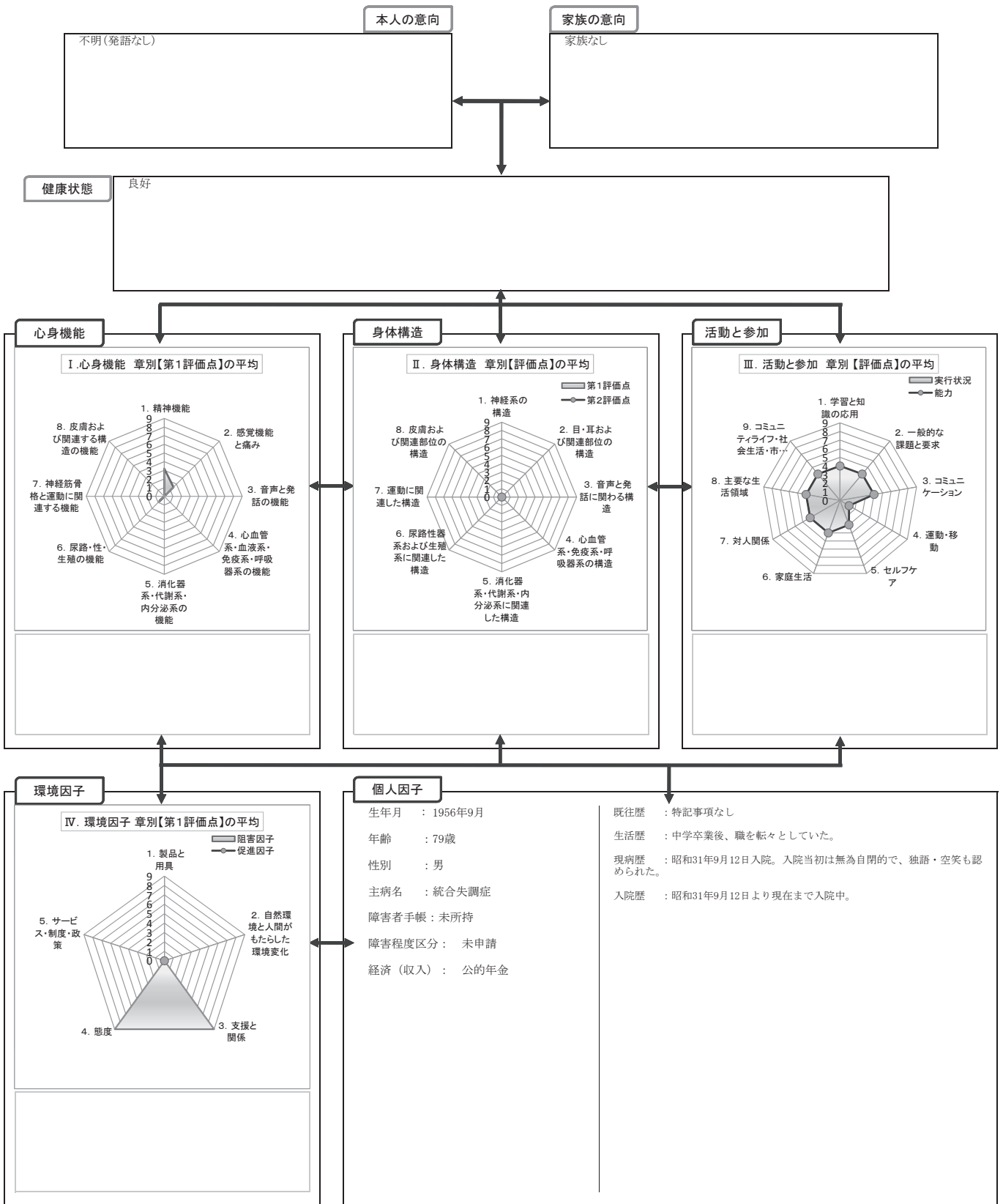




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

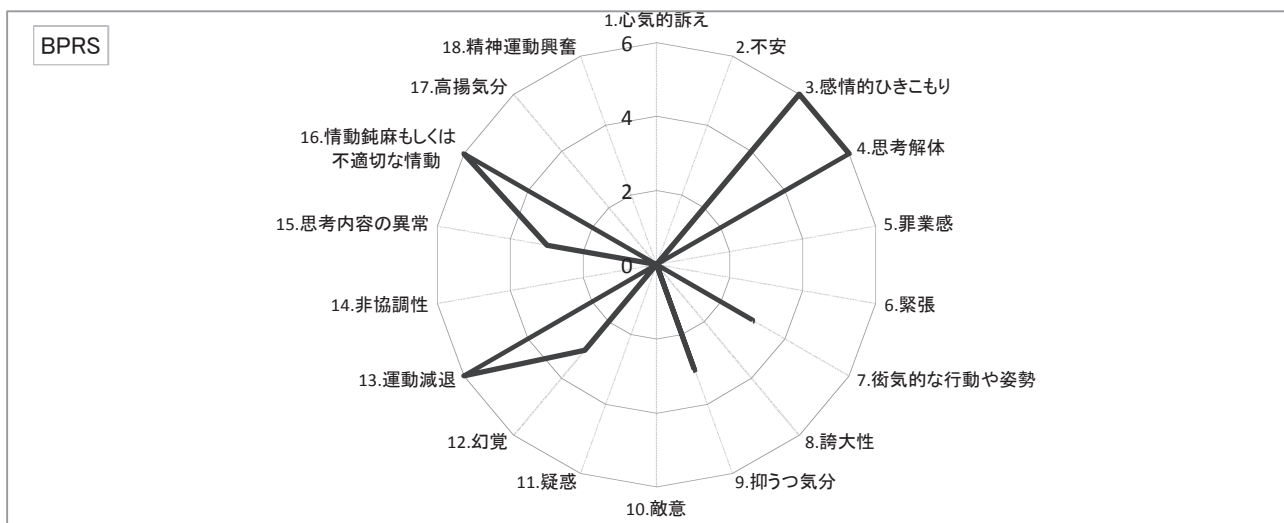
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2: 軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	1: ごく軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3: 中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2: 軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3: 中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	5: 高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

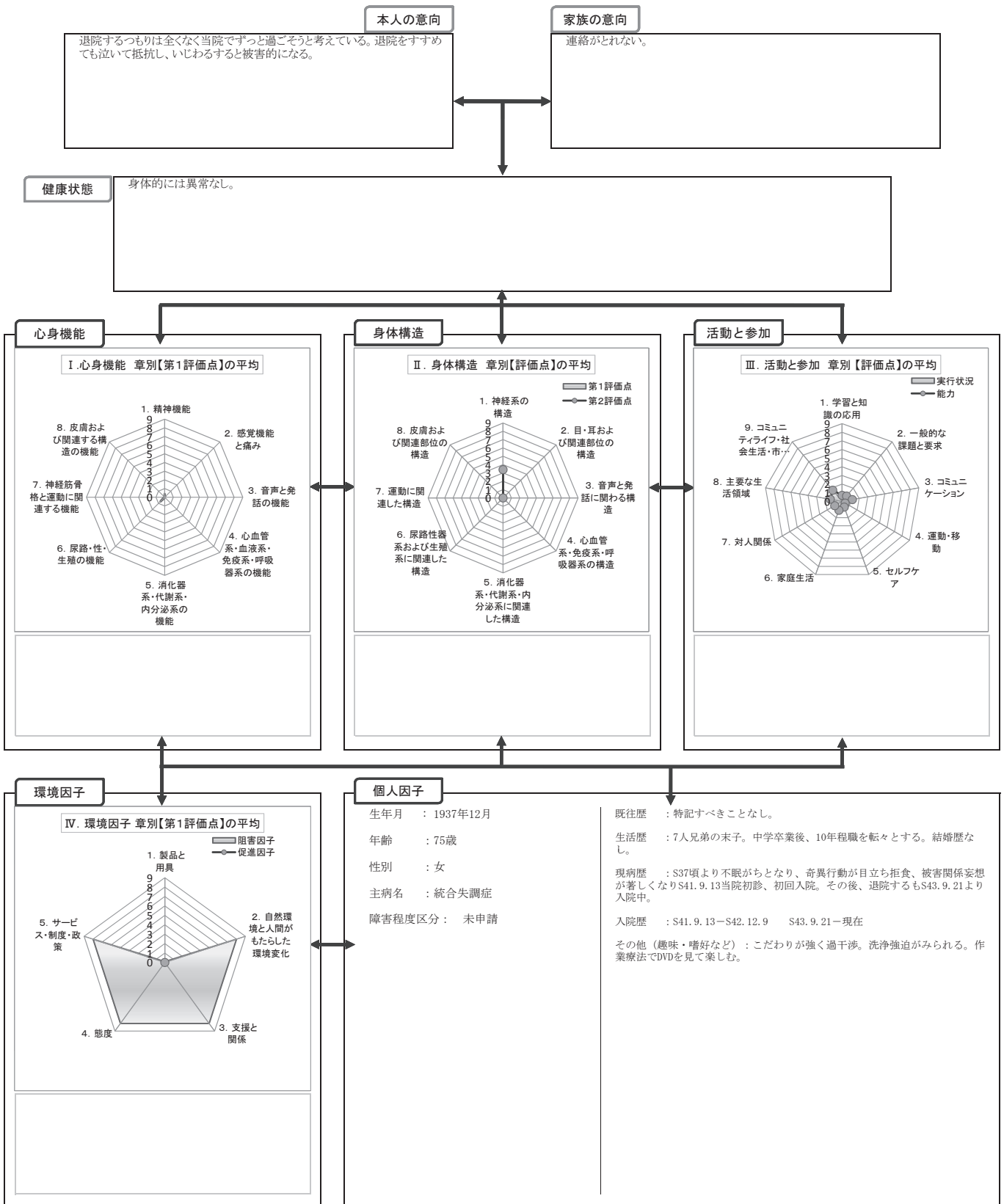




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

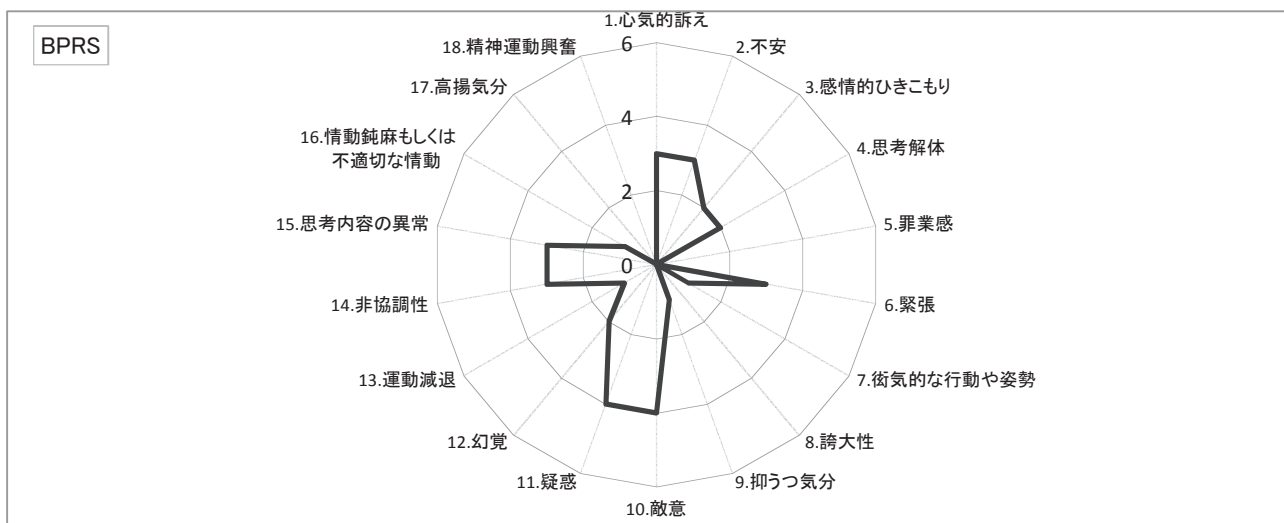
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6: 非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	3: 中等度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3: 中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6: 非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3: 中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

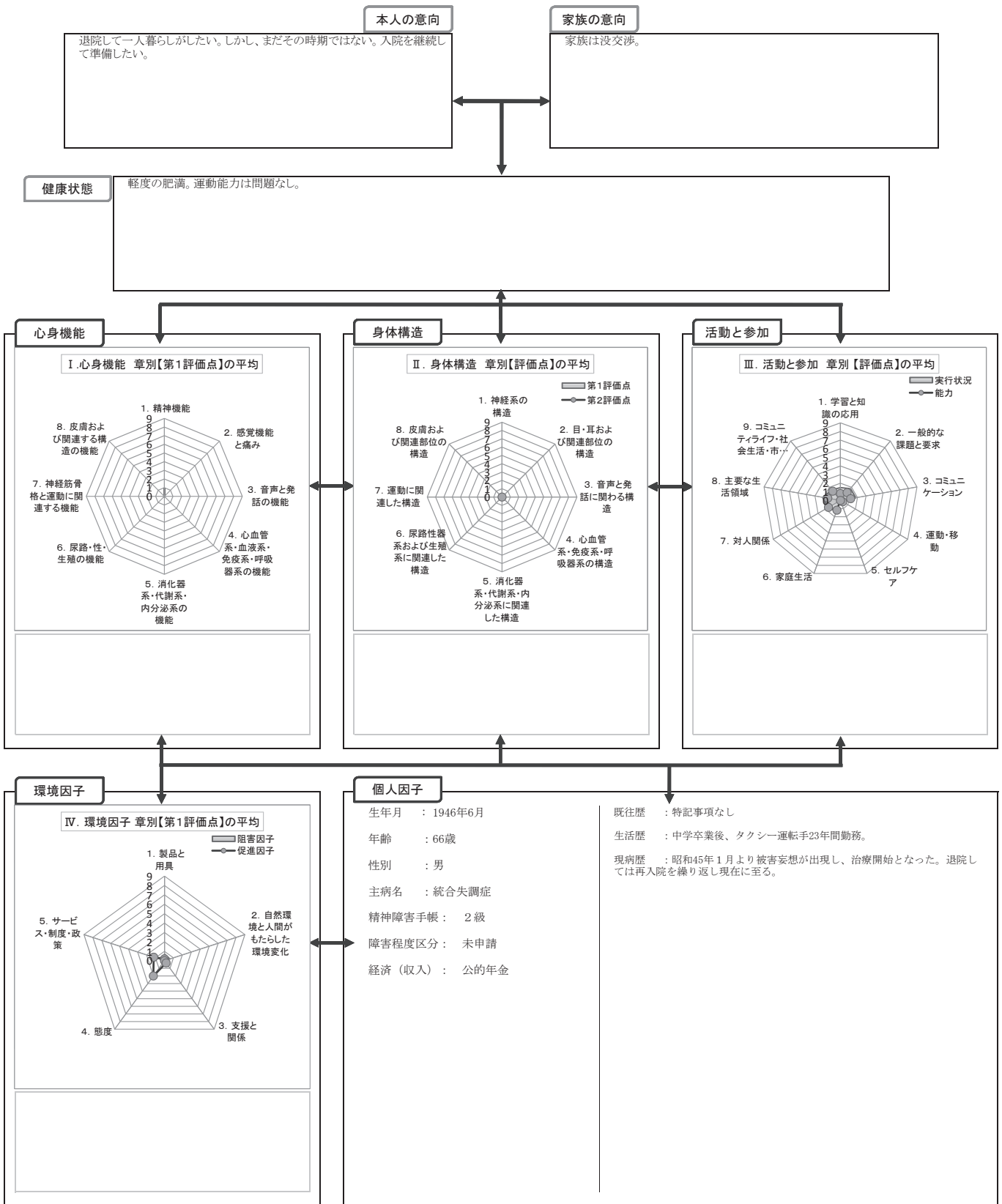




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

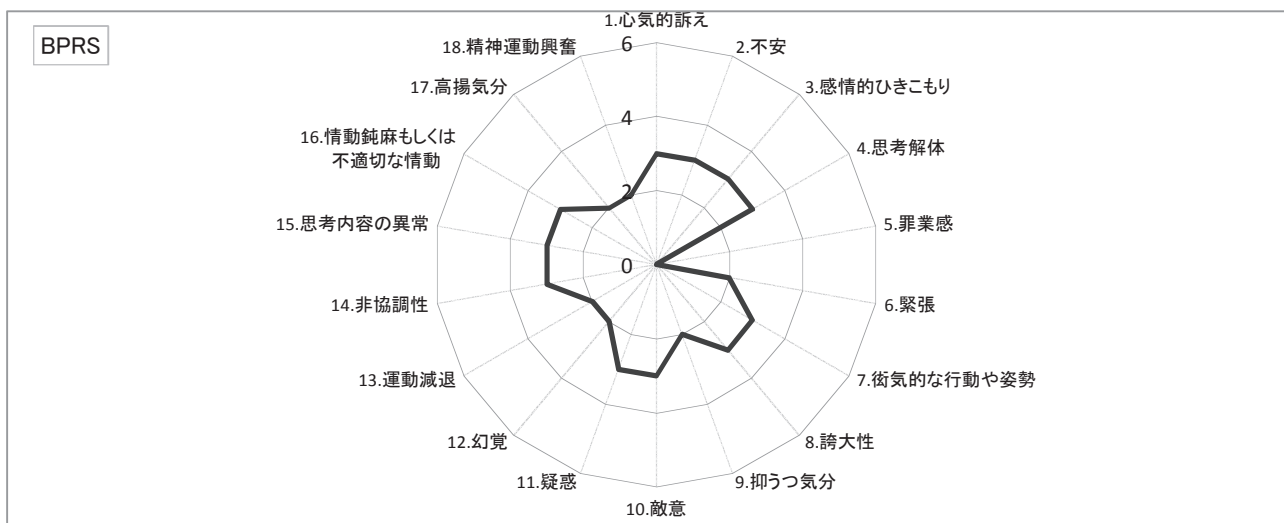
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体 の健康状態 について の関心 の程度。身体 の健康状態 に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	3: 中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3: 中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2: 軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2: 軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1: ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	4: やや高度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	4: やや高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2: 軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1: ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3: 中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3: 中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	1: ごく軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし



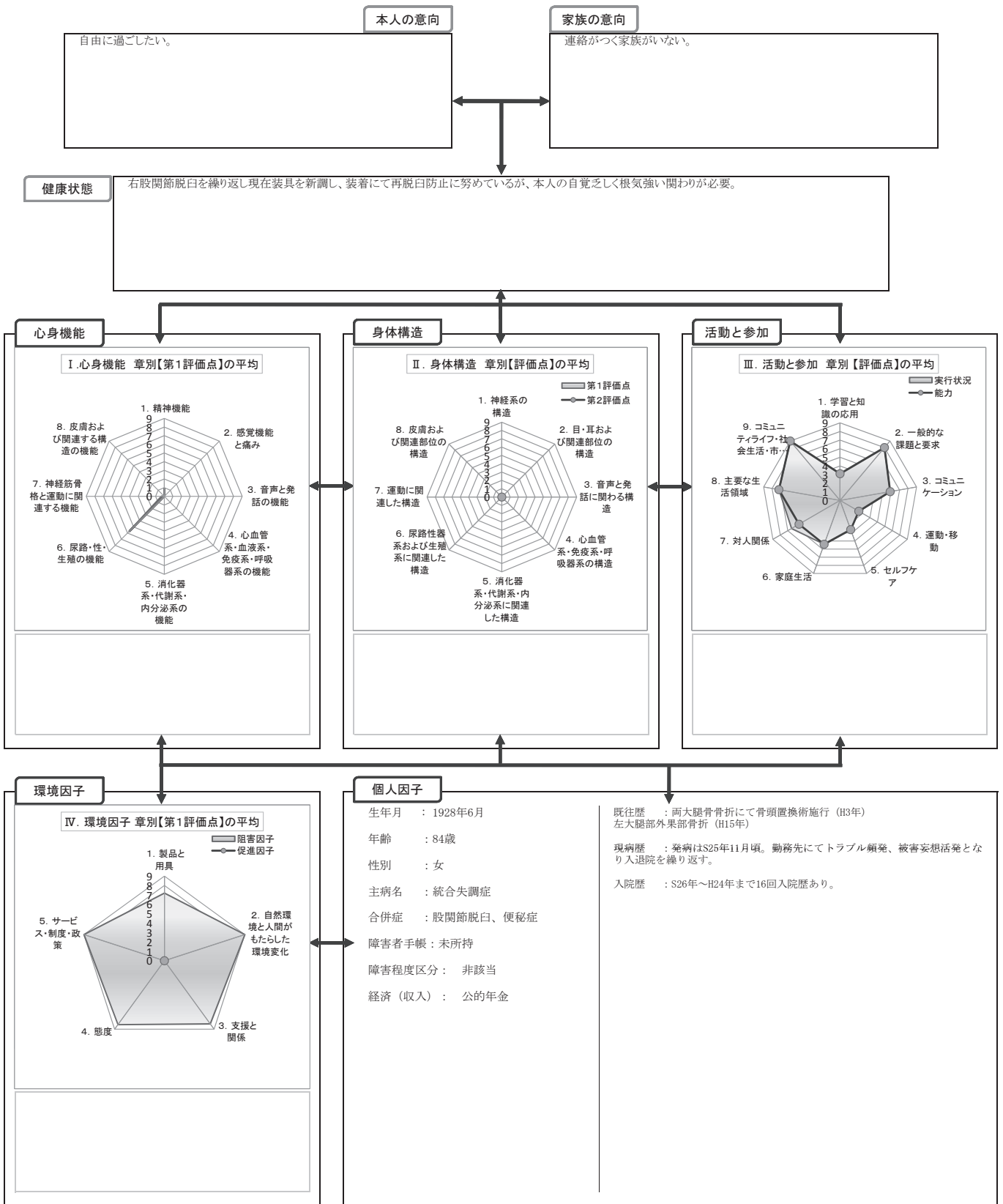


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	3: 中等度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3: 中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	3: 中等度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3: 中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2: 軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変わり、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3: 中等度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	2: 軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3: 中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	3: 中等度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2: 軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	2: 軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3: 中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3: 中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3: 中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2: 軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	2: 軽度

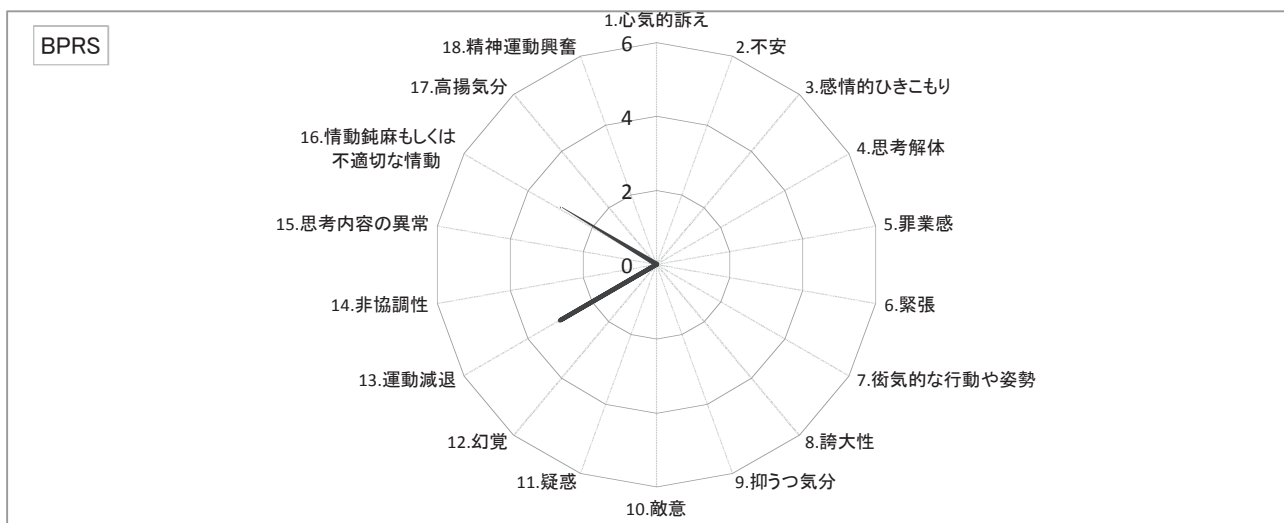


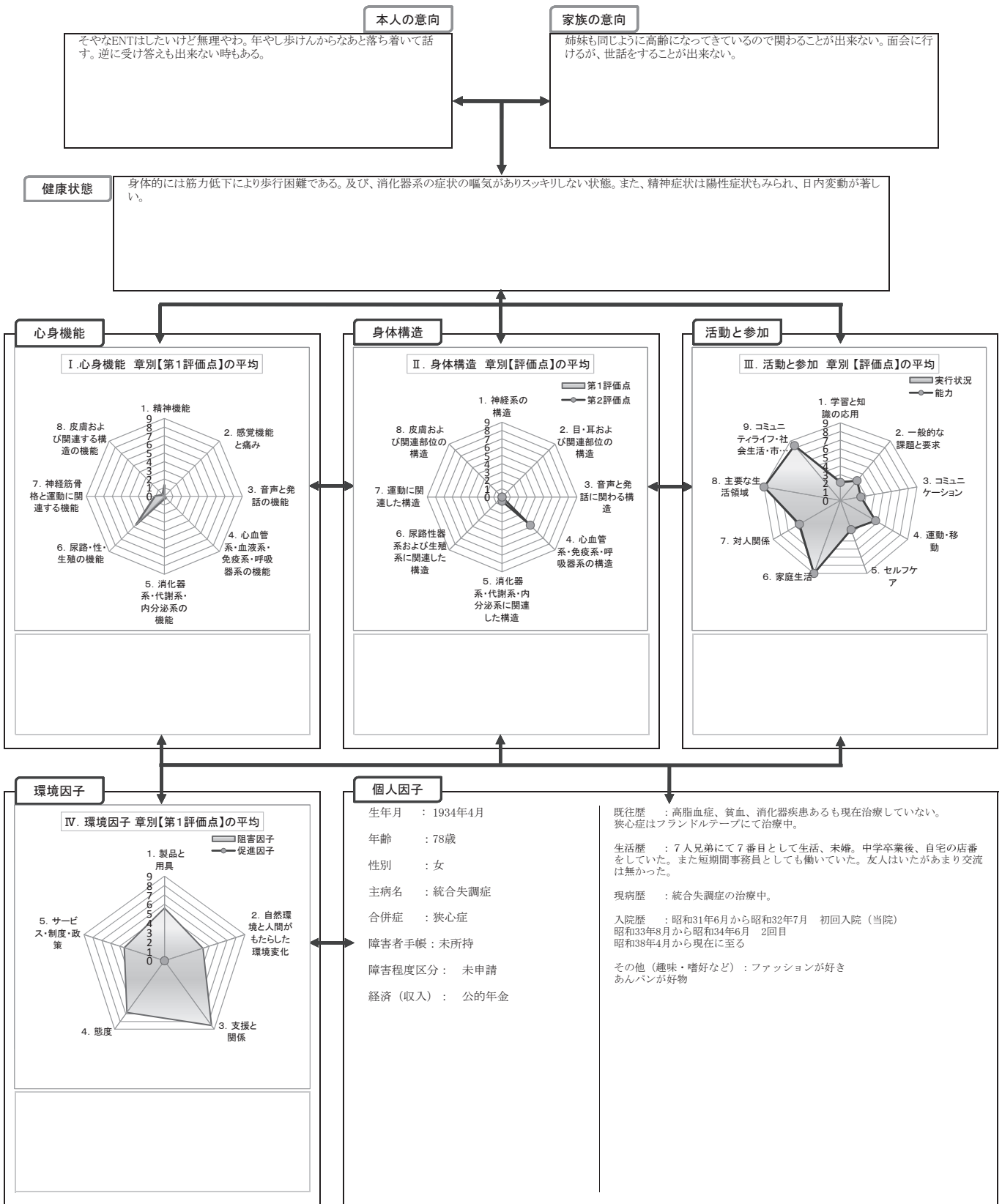




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

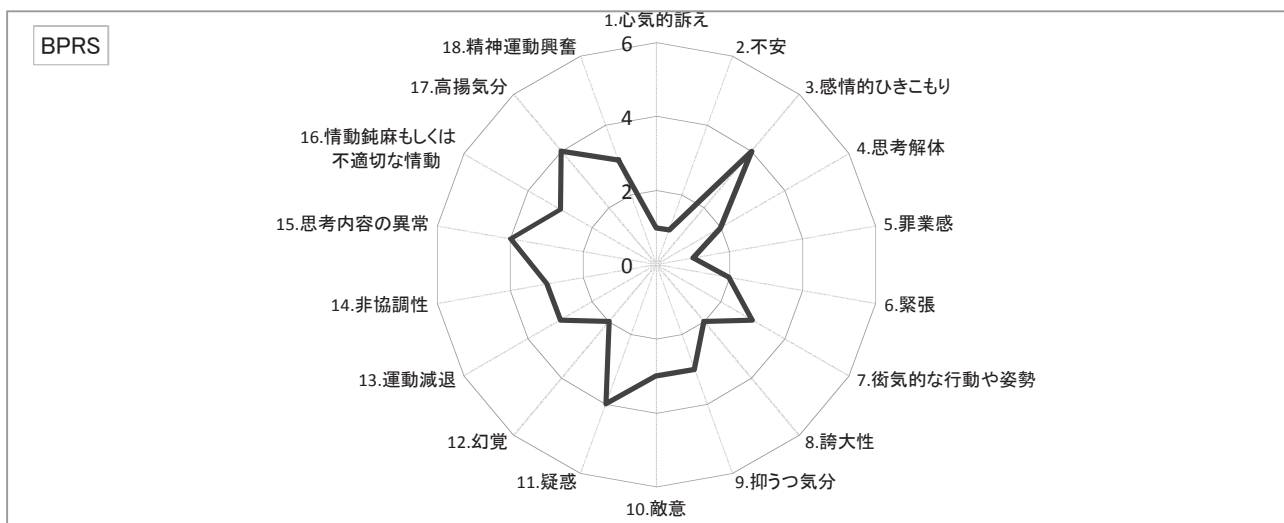
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3: 中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3: 中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

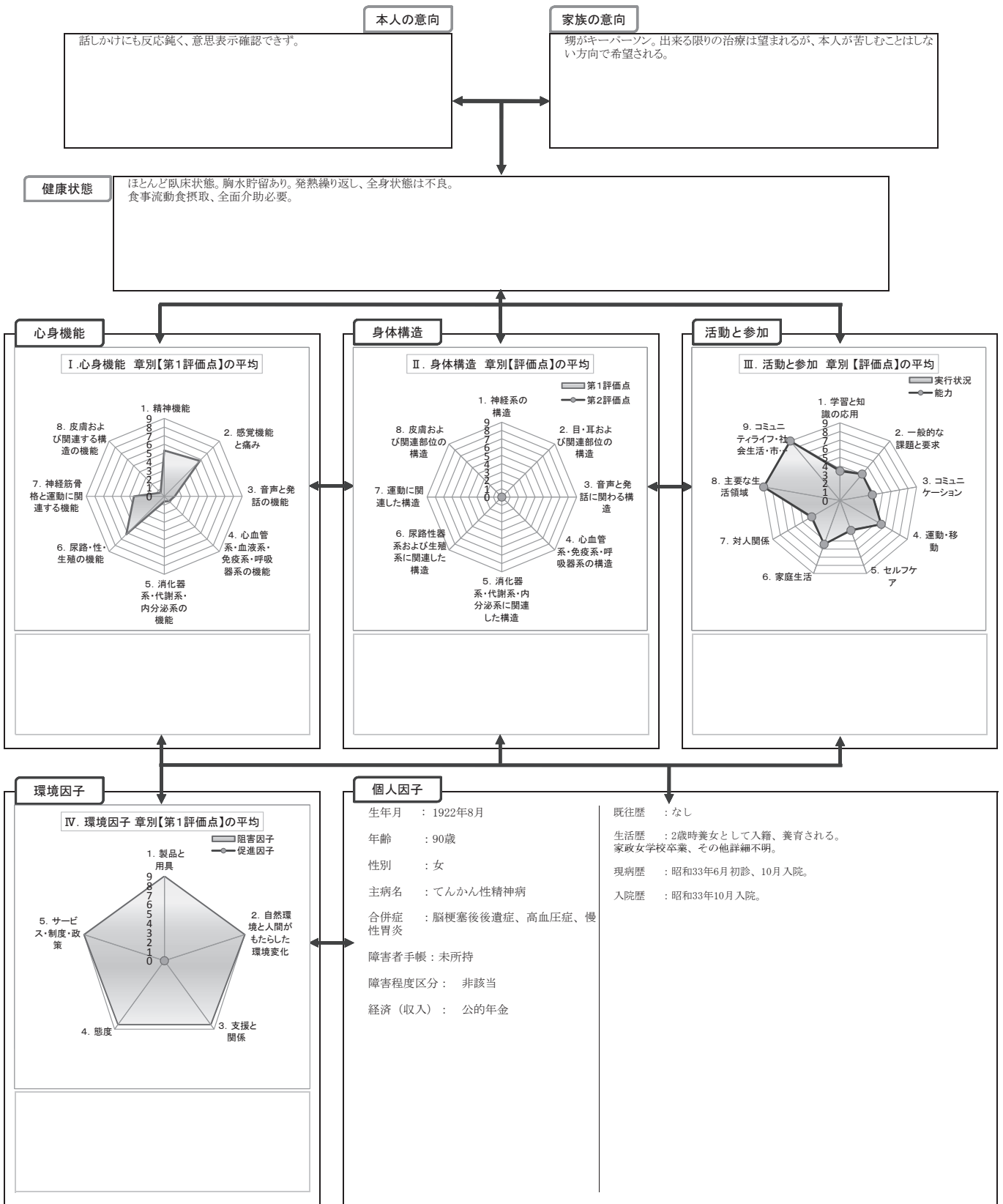




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

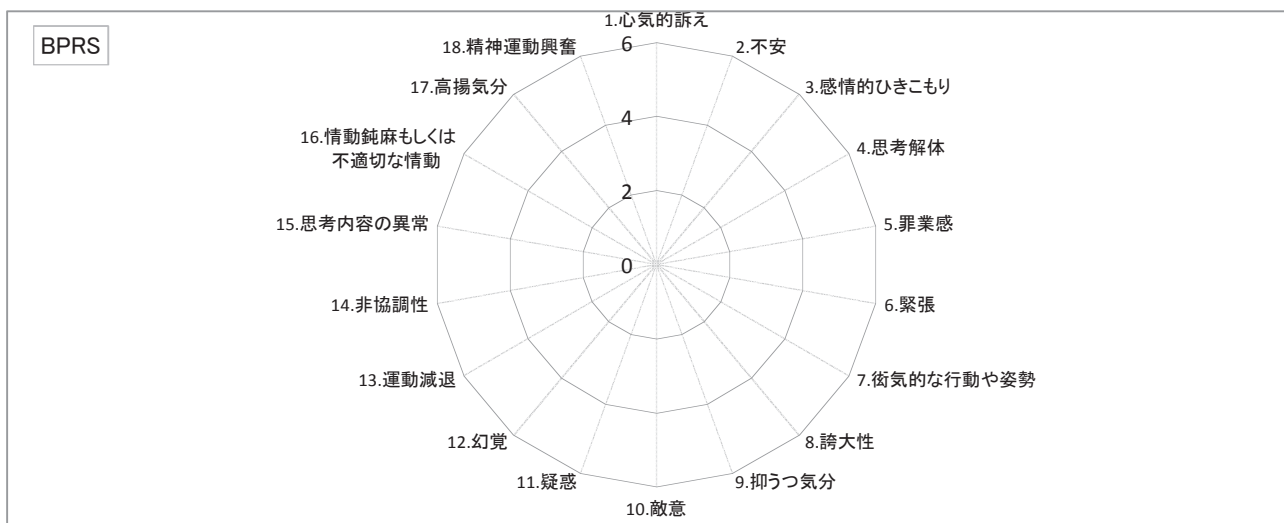
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	4:やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2:軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2:軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	2:軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	3:中等度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3:中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	4:やや高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	2:軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4:やや高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	4:やや高度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3:中等度

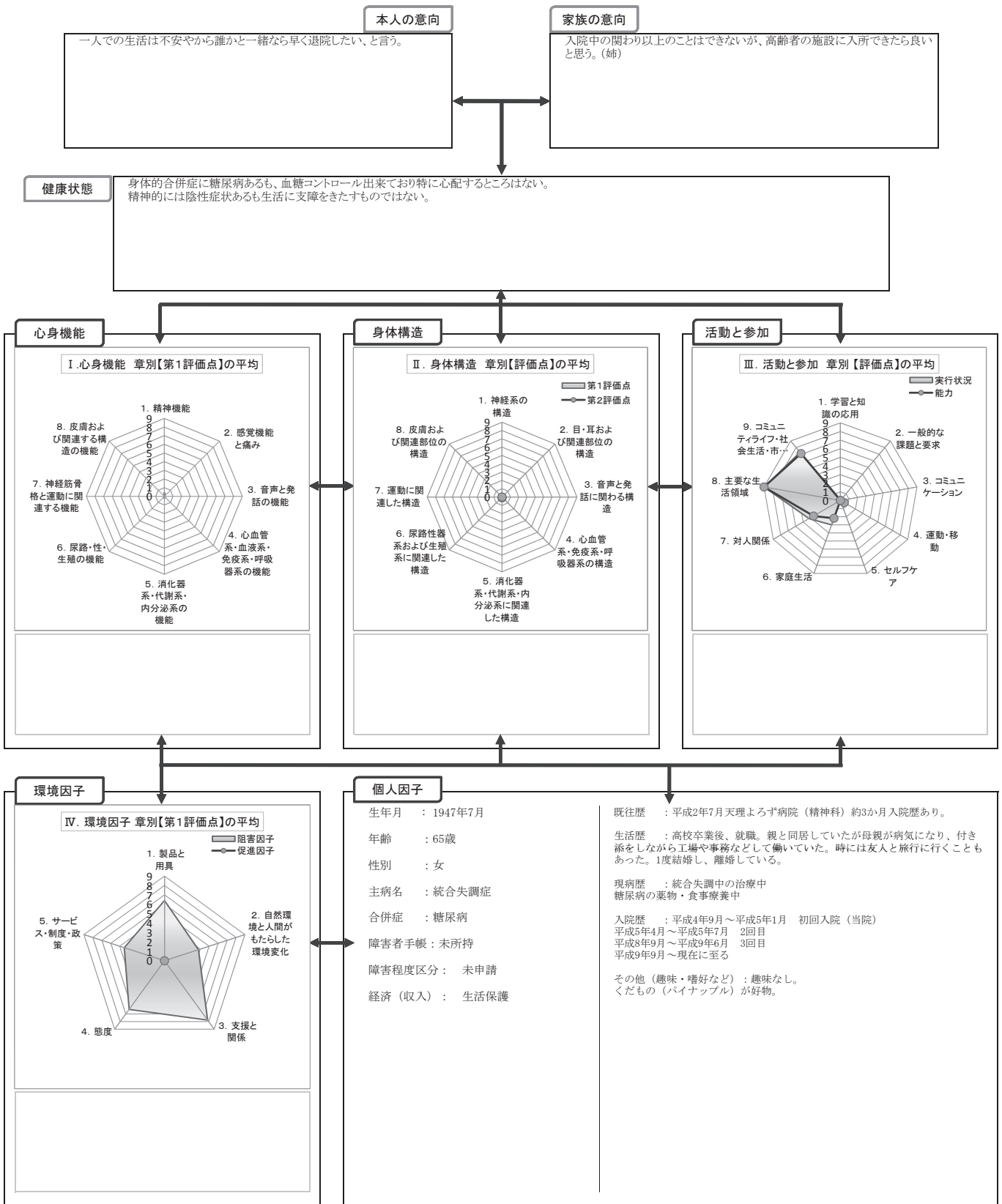




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

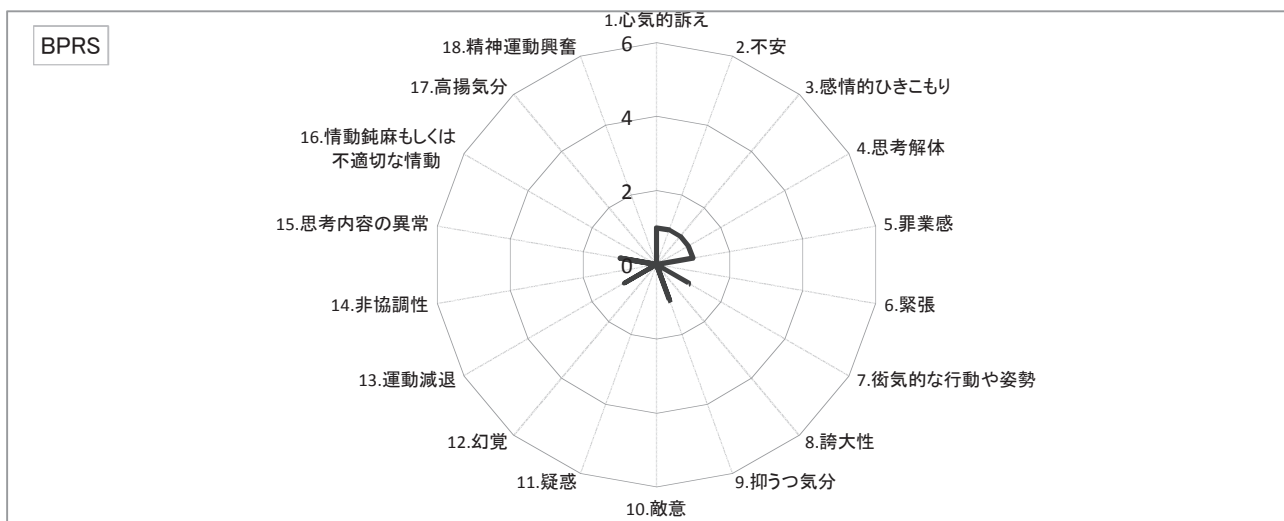
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0: 症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし



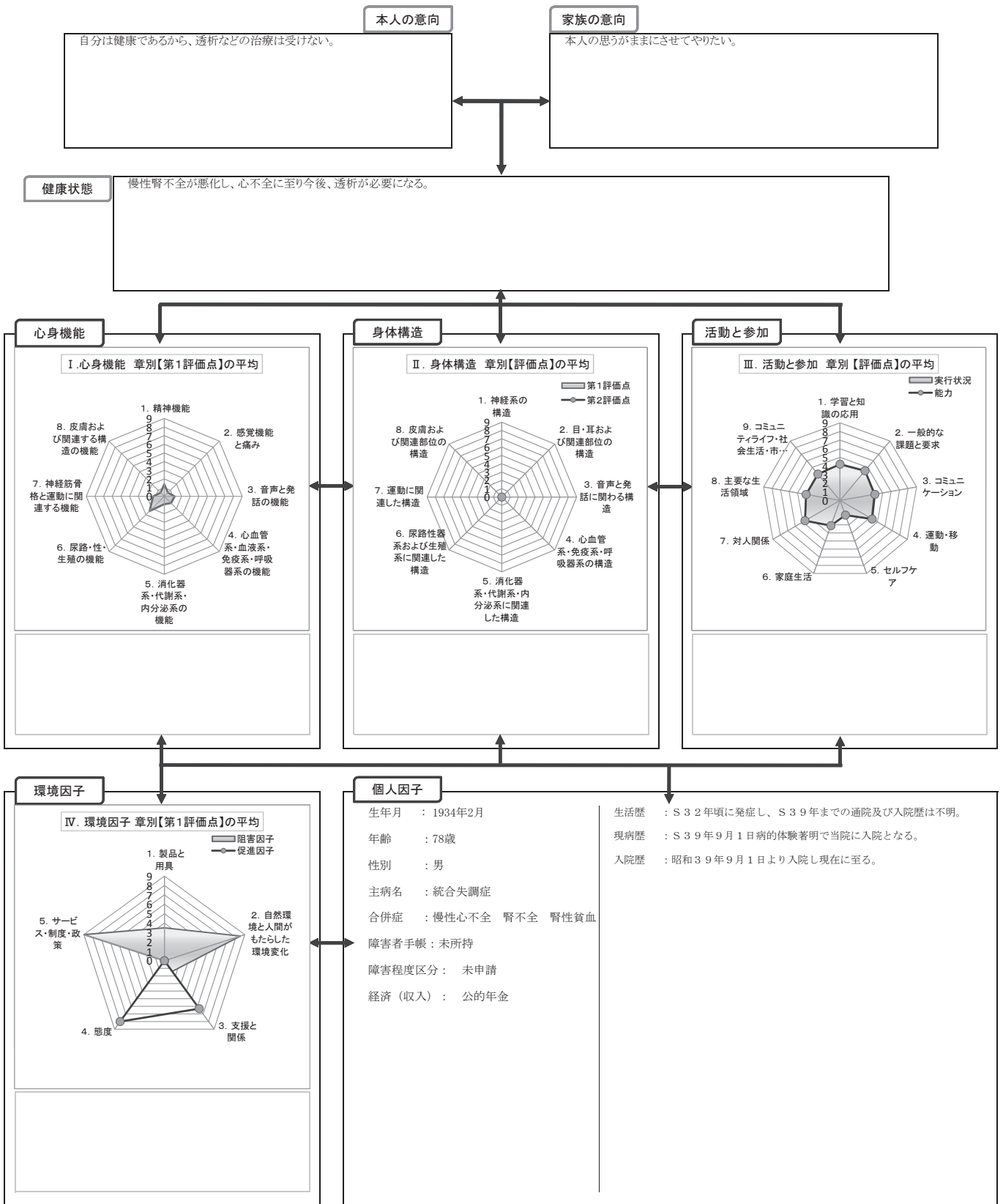


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	1:ごく軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

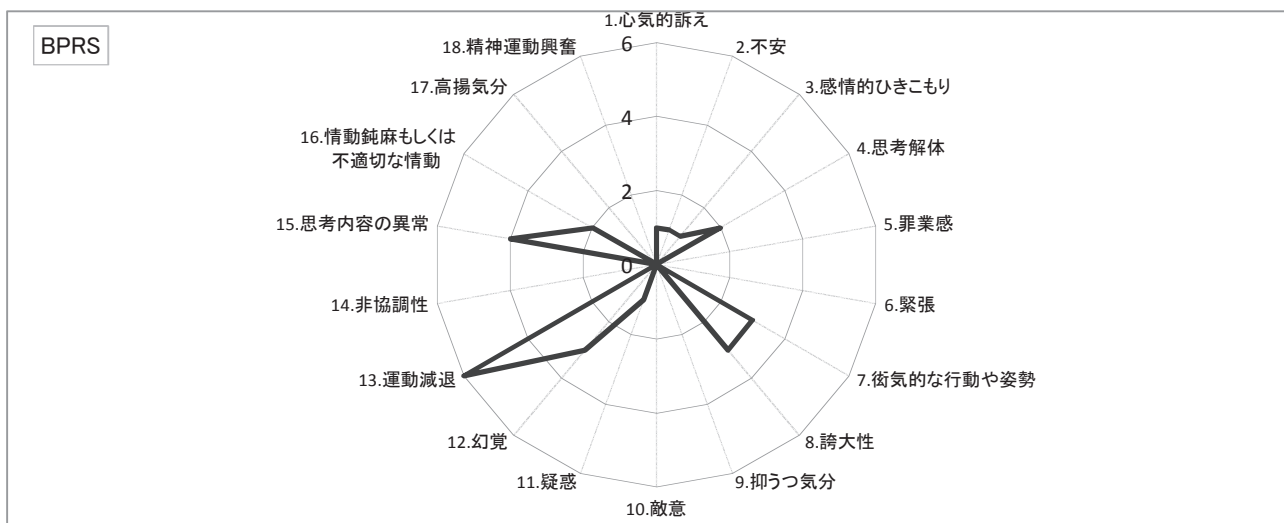


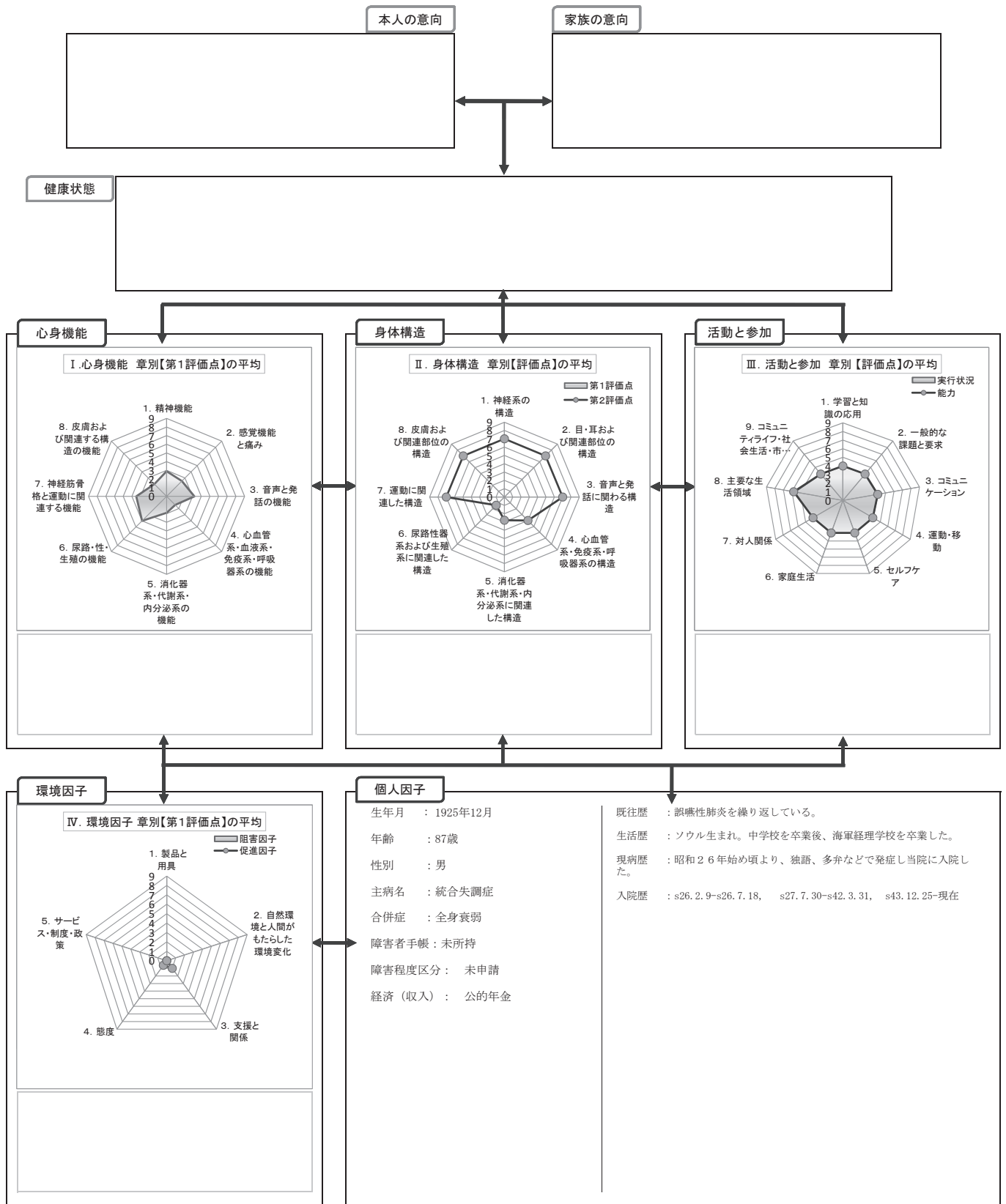




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

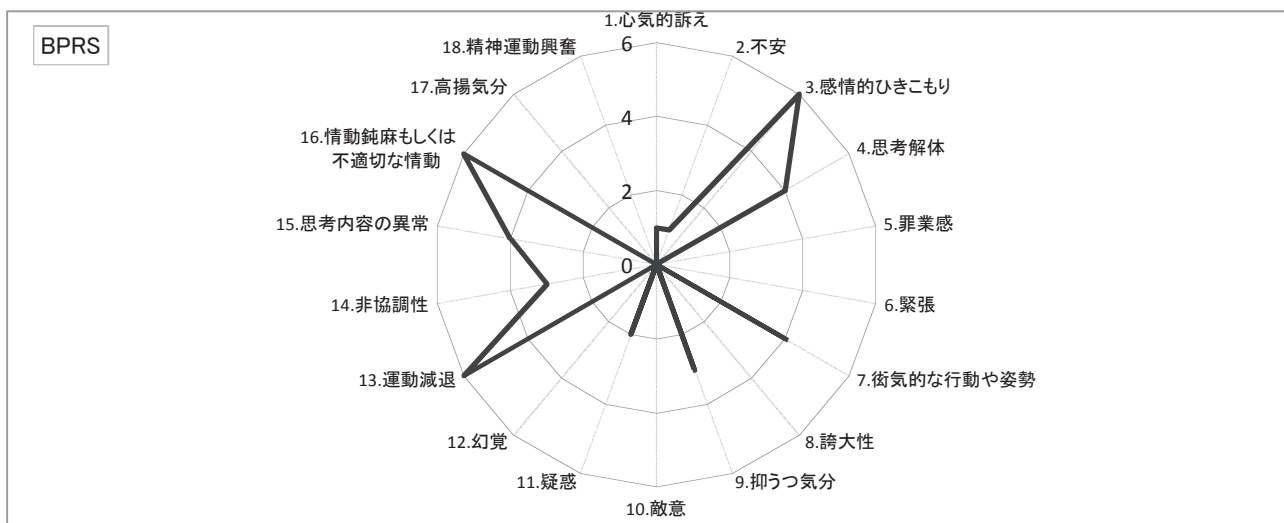
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体 の健康状態 について の関心 の程度。身体 の健康状態 に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	1:ごく軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	2:軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3:中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3:中等度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	1:ごく軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3:中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4:やや高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	2:軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

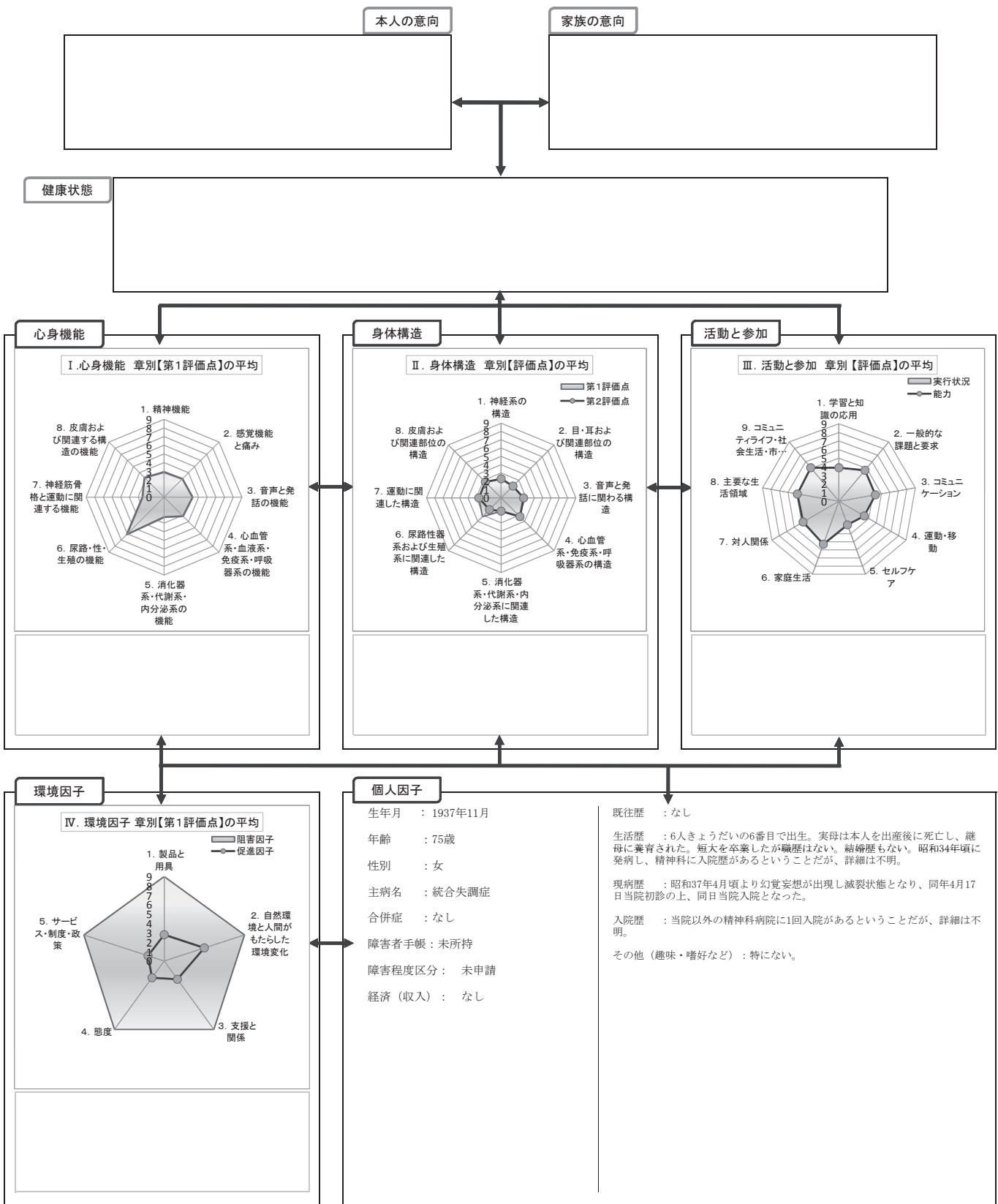




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

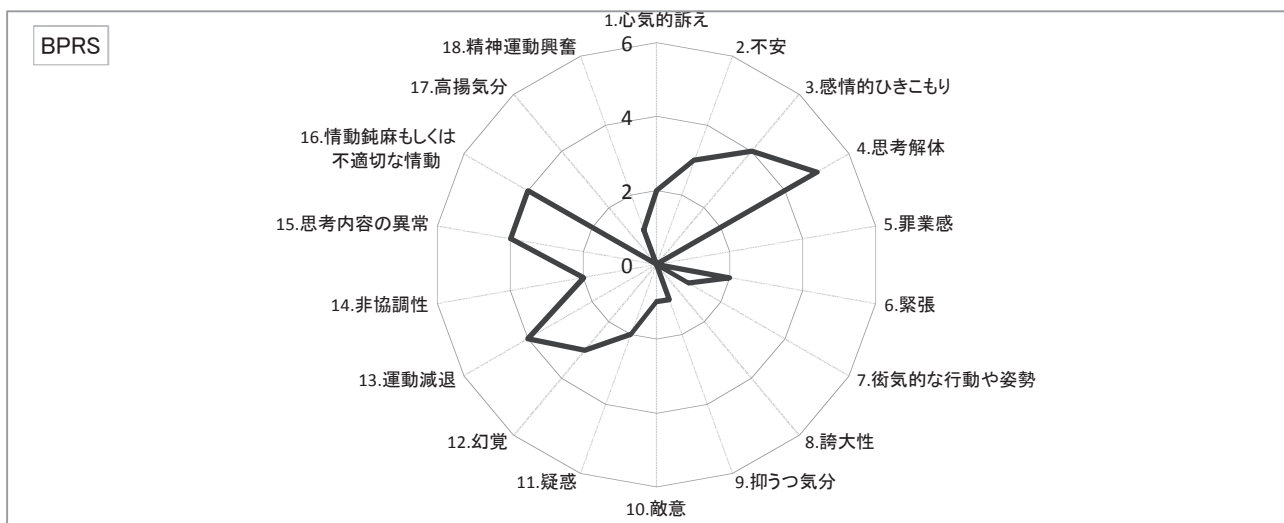
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	1:ごく軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6:非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4:やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	4:やや高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	3:中等度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	2:軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6:非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4:やや高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6:非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

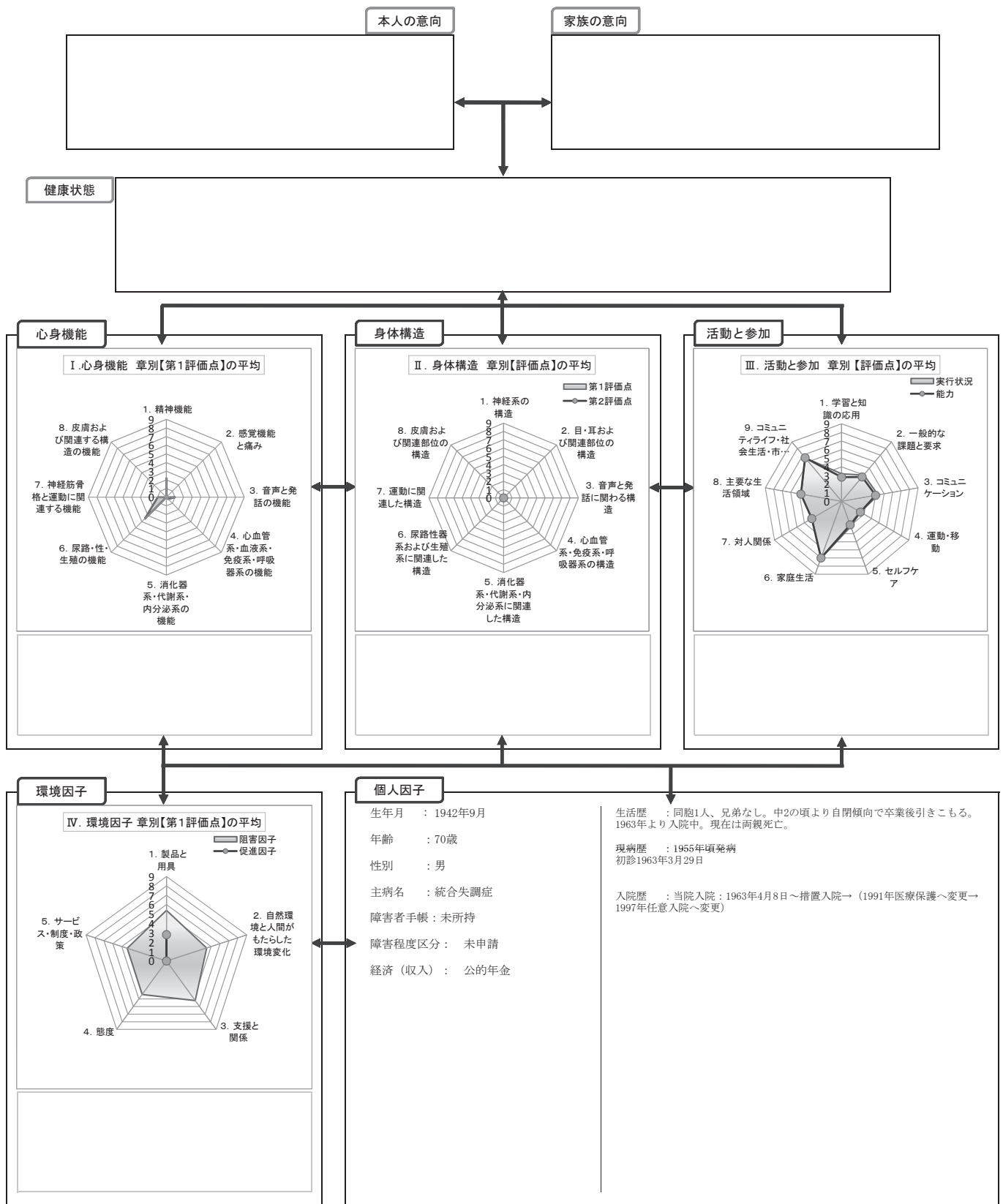




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

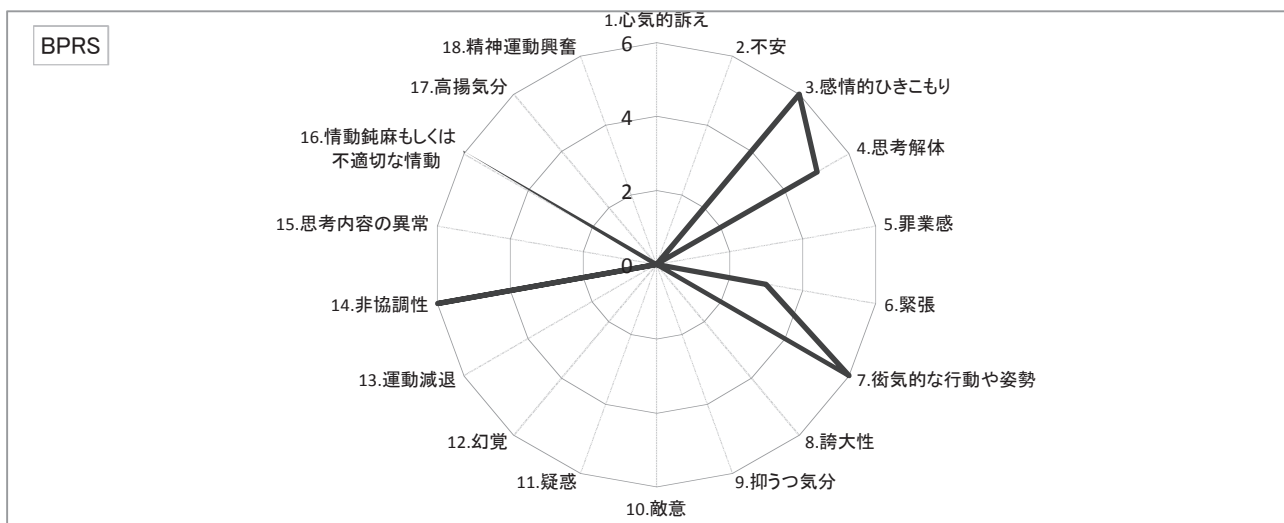
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体 の健康状態 について の関心 の程度。身体 の健康状態 に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	2: 軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	3: 中等度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	4: やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	5: 高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	2: 軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1: ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1: ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	2: 軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3: 中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	4: やや高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2: 軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4: やや高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	4: やや高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	1: ごく軽度



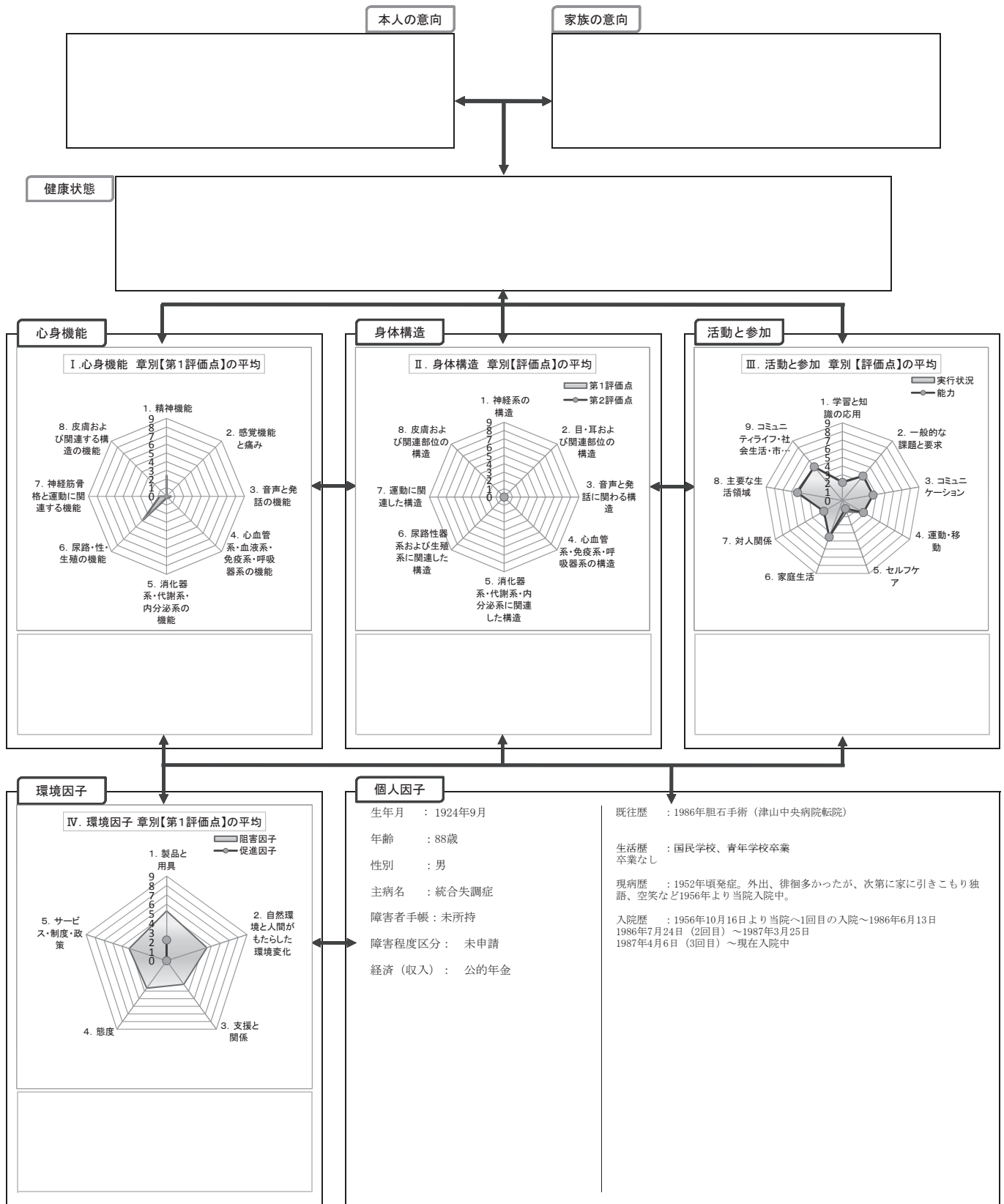


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6: 非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	5: 高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0: 症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

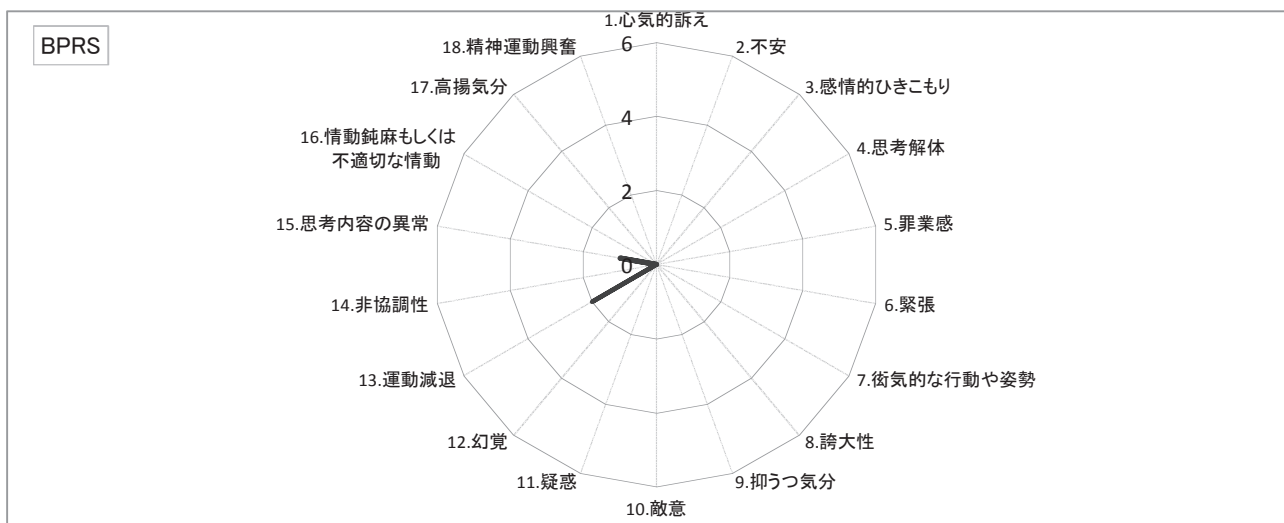


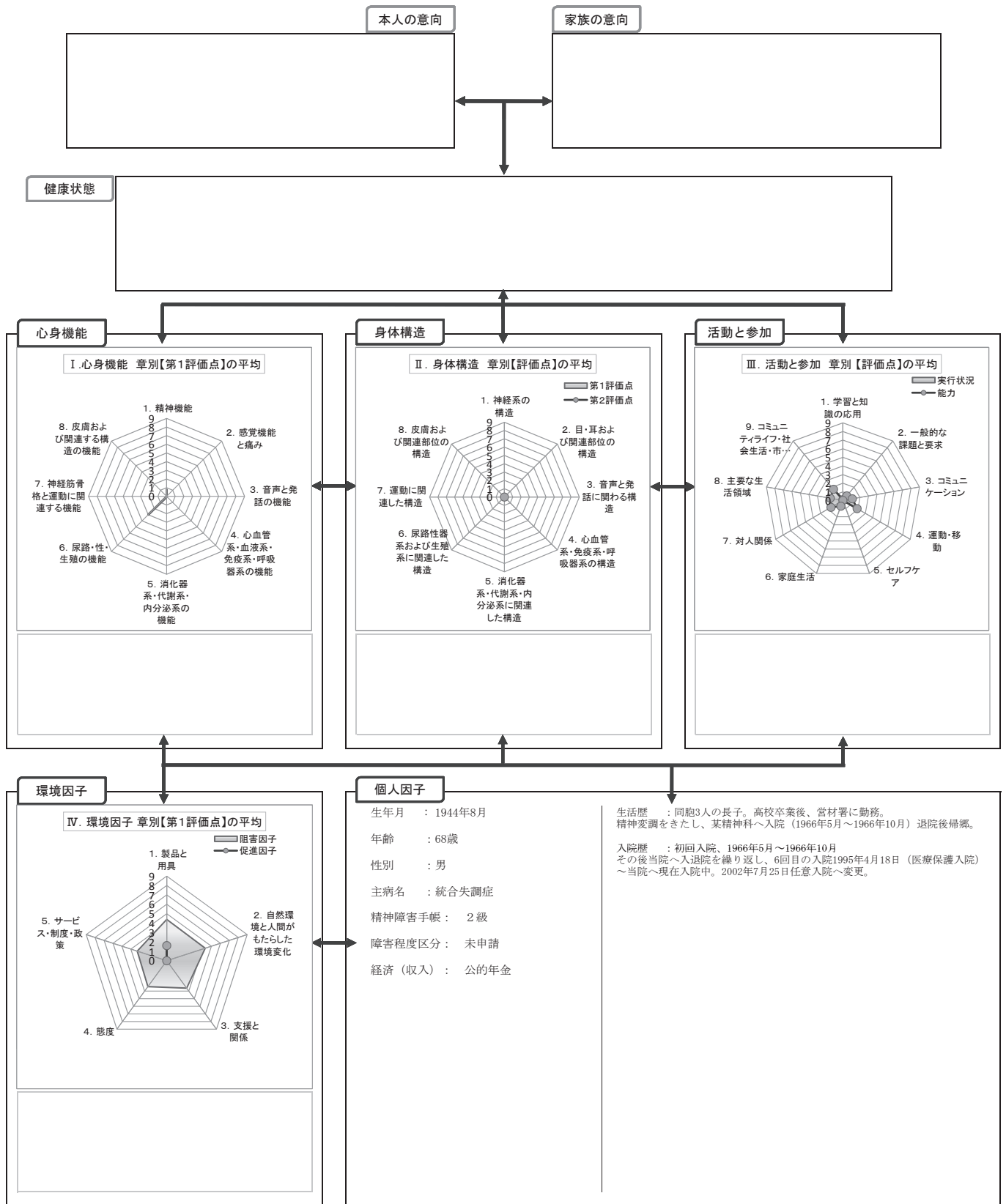




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

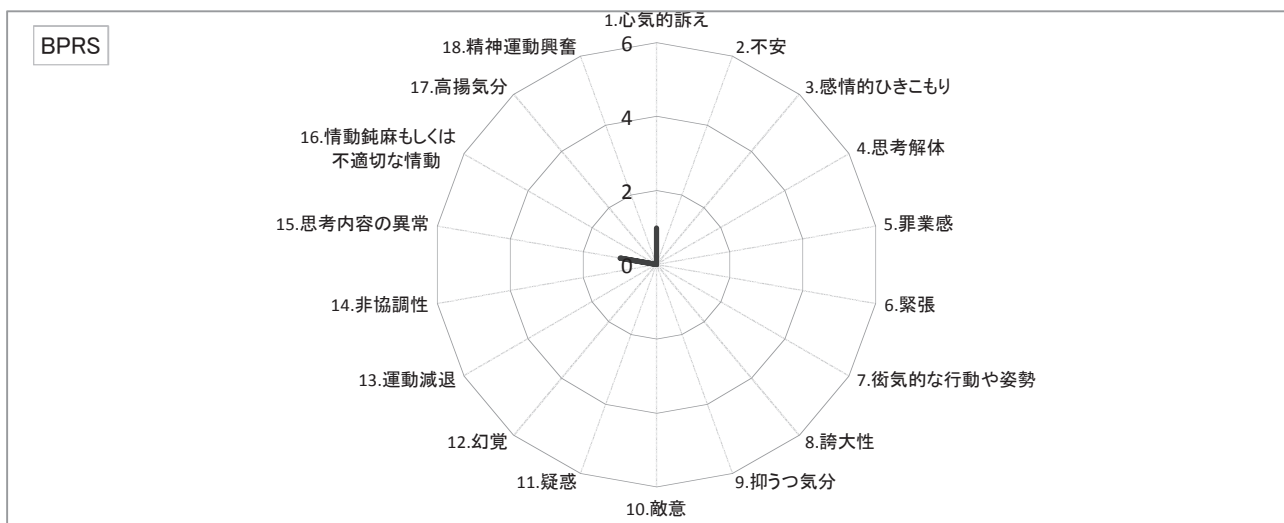
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	2: 軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1: ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

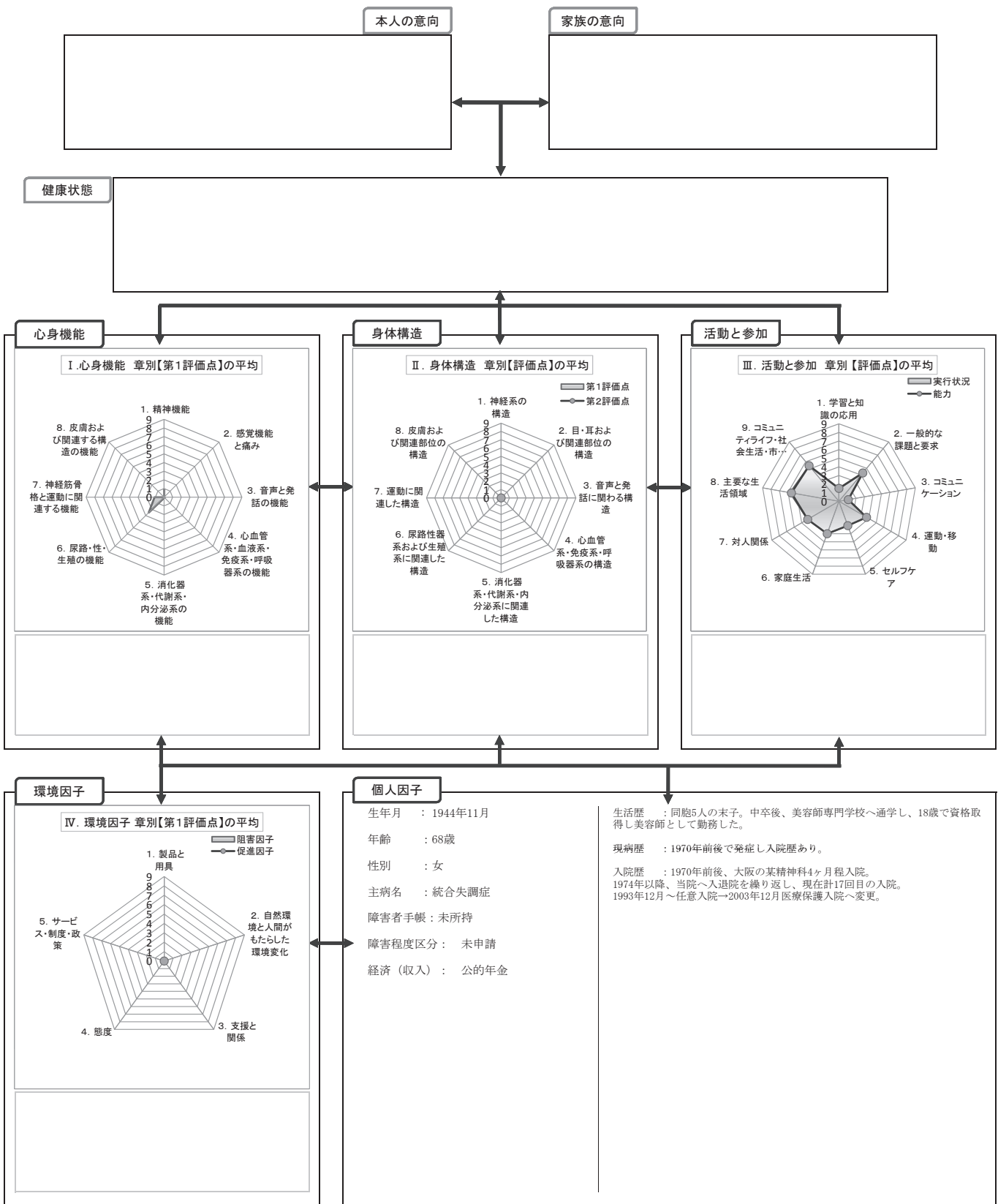




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

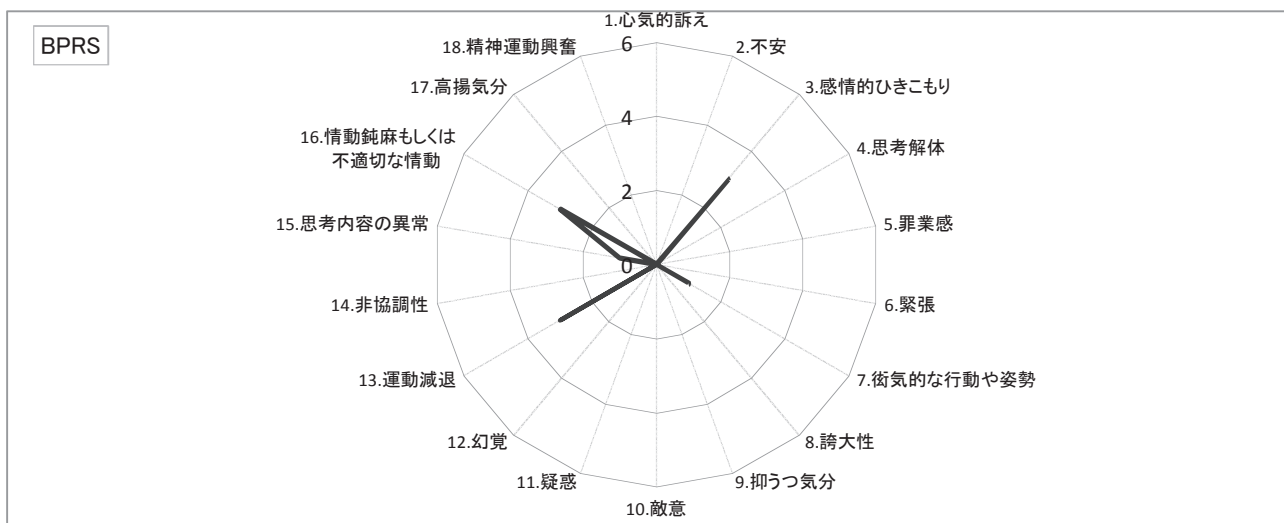
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0:症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0:症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	0:症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

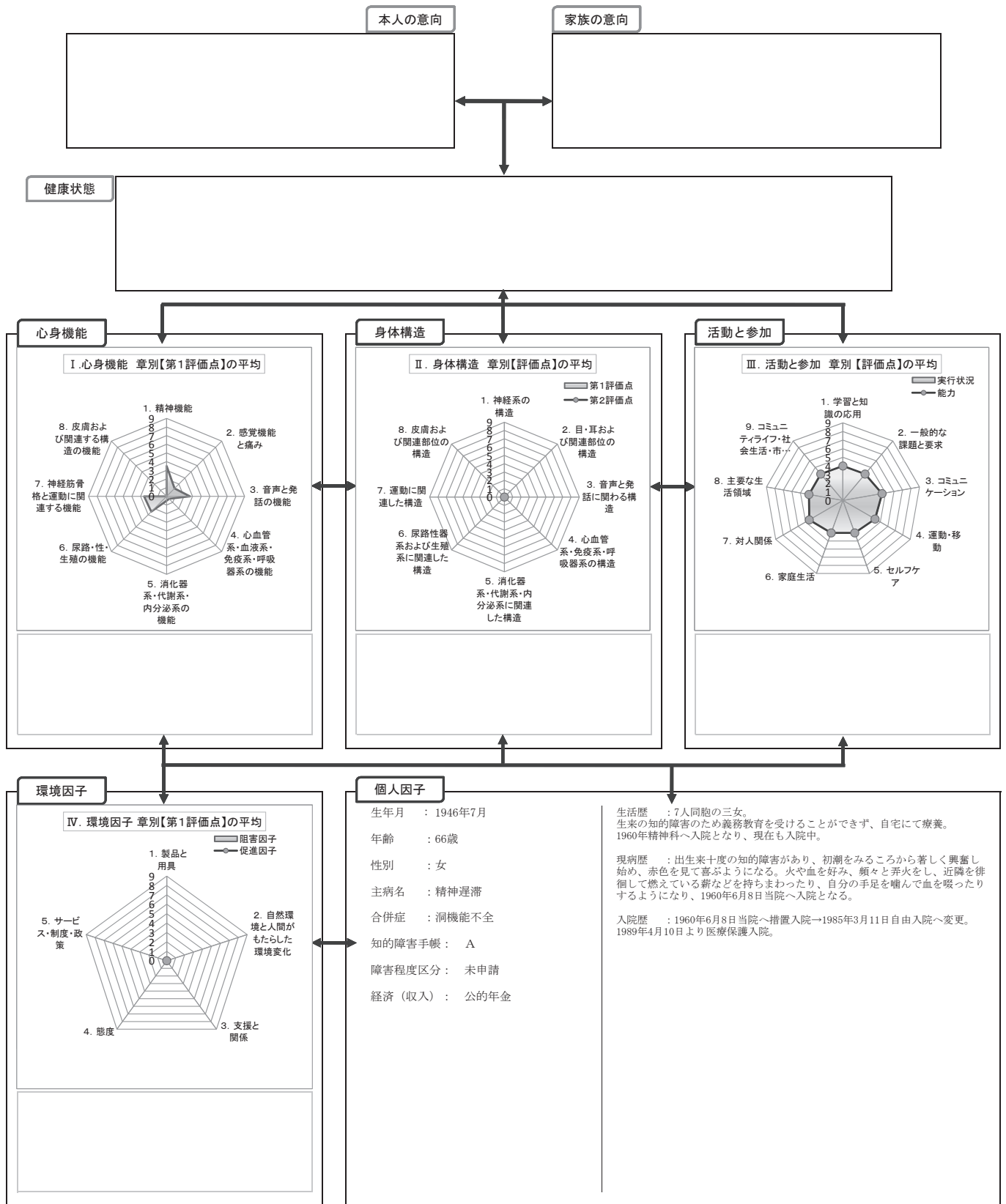




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

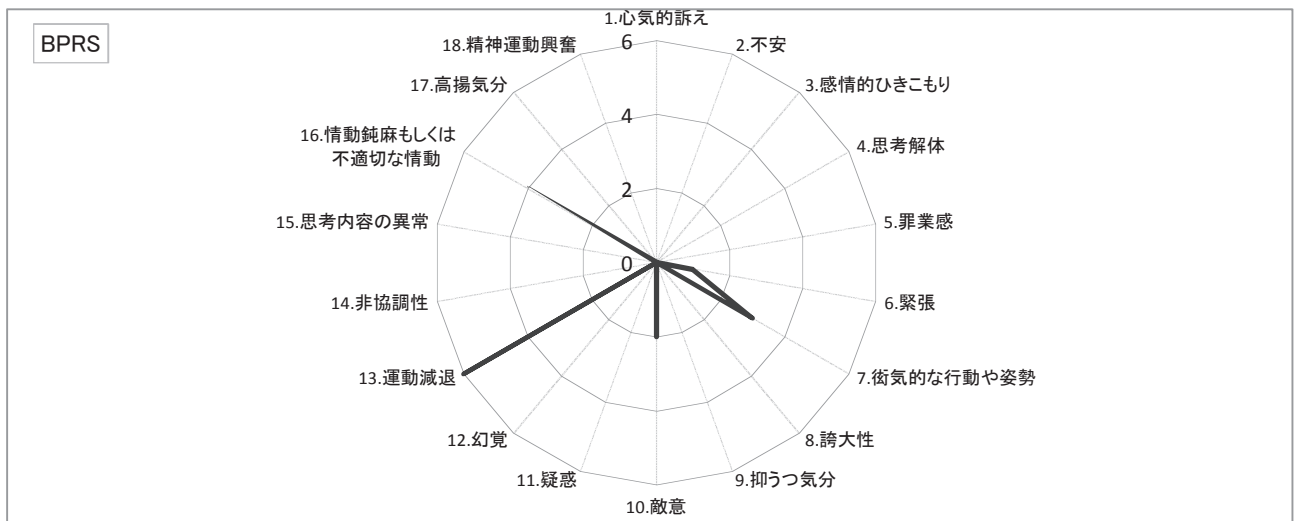
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	3: 中等度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3: 中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1: ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3: 中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし



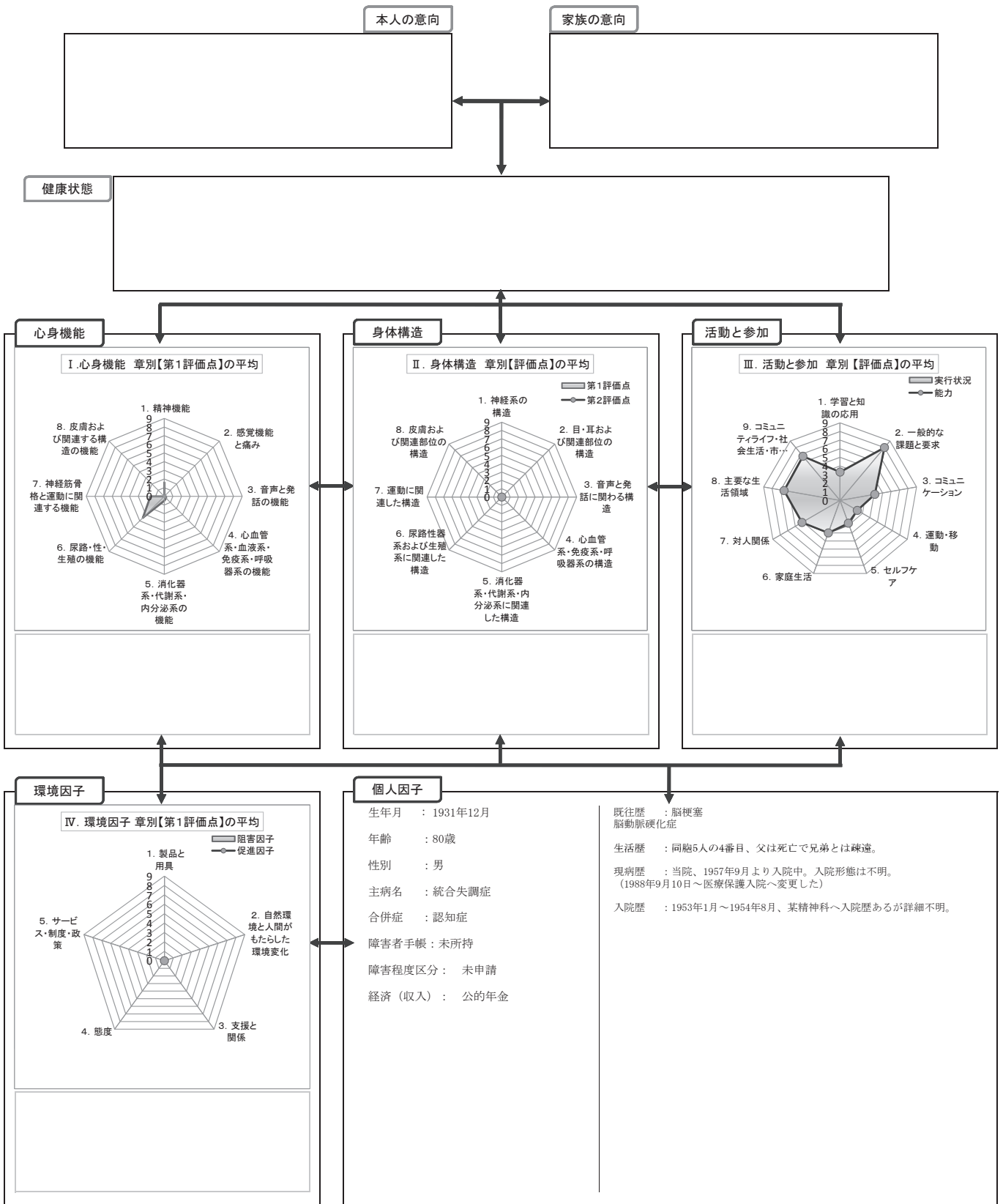


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2: 軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6: 非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	4: やや高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

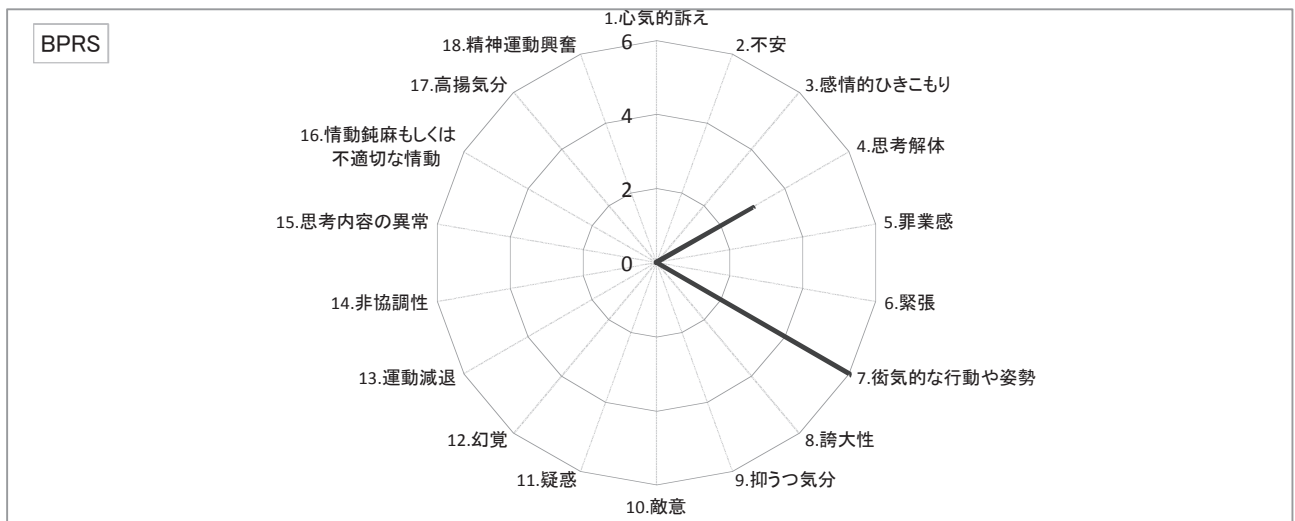


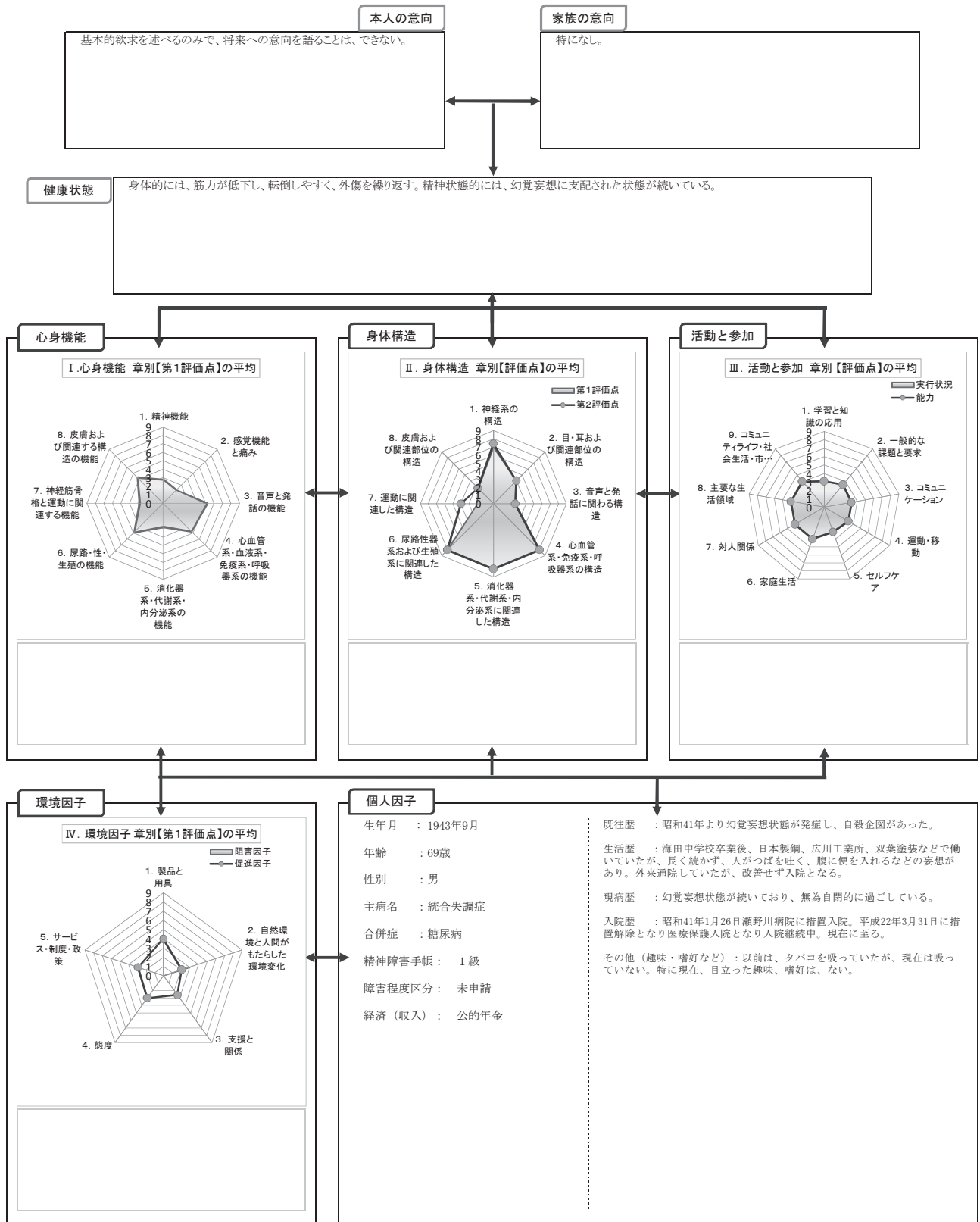




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

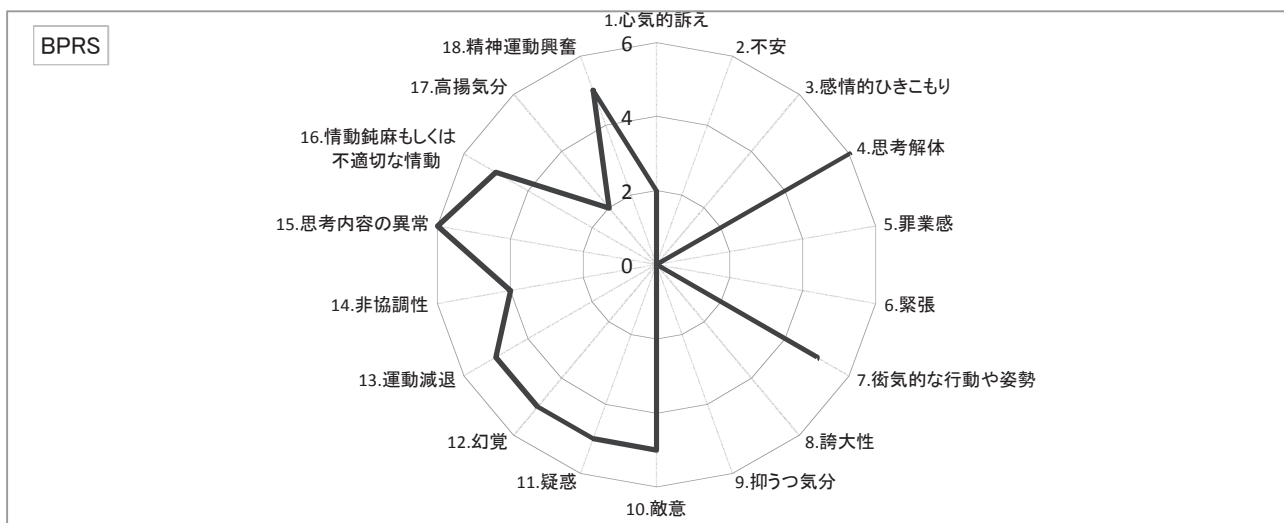
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3: 中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	0: 症状なし
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	0: 症状なし
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

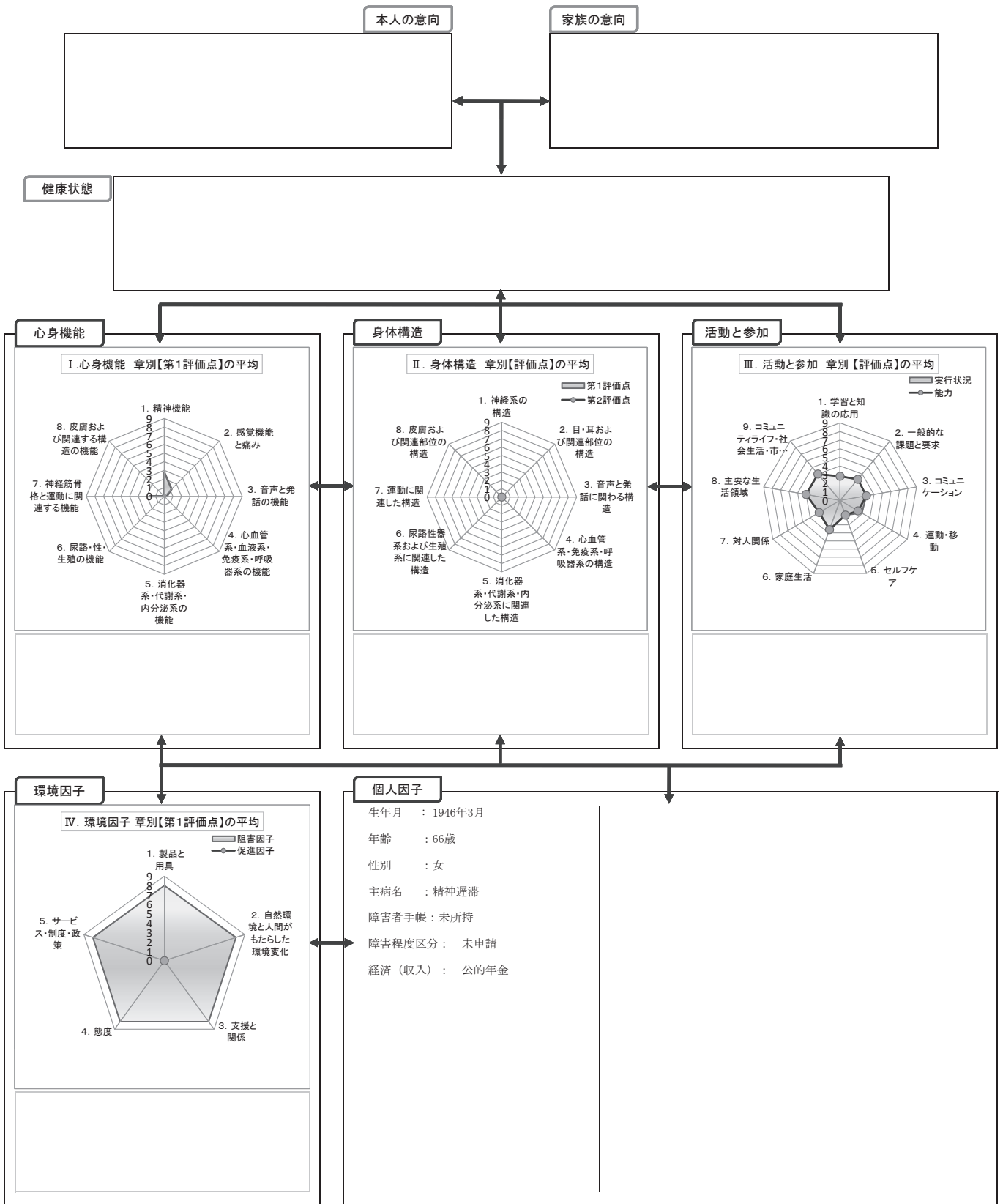




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

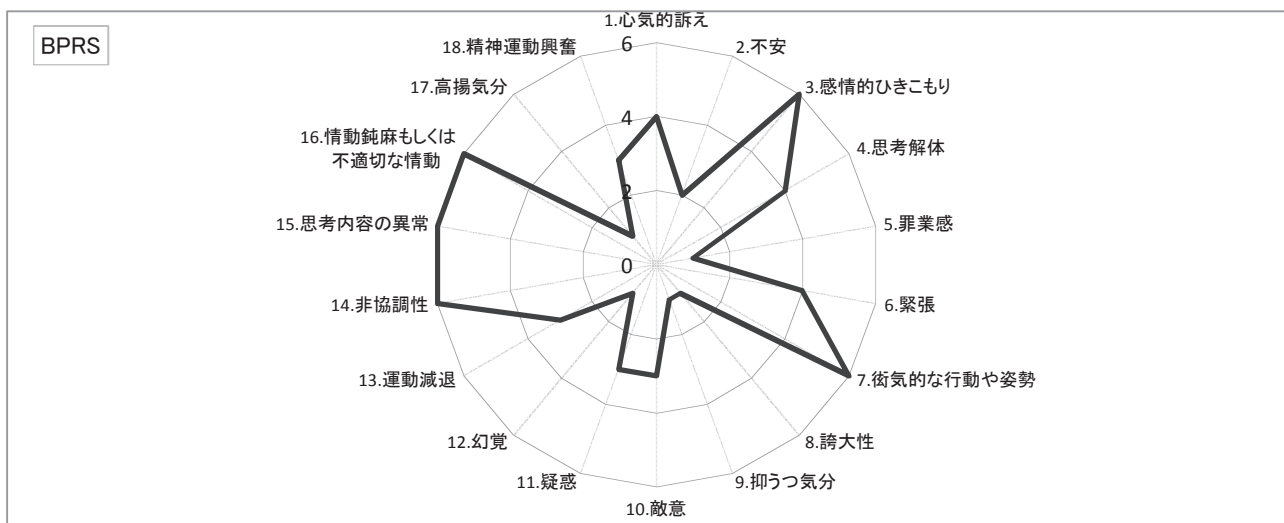
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6:非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	5:高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	5:高度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	5:高度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	5:高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	5:高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	4:やや高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえ他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6:非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	5:高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	2:軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	5:高度

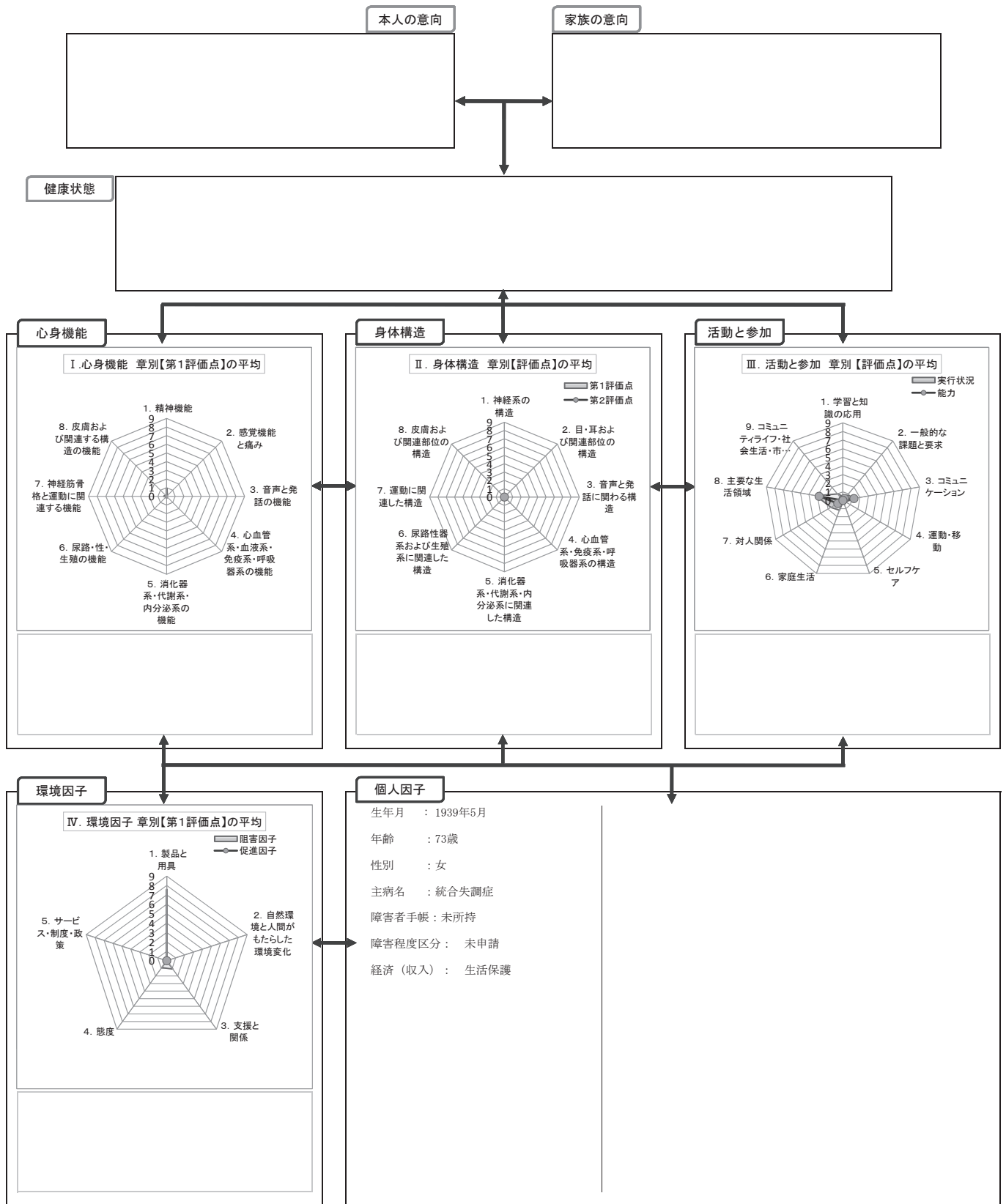




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

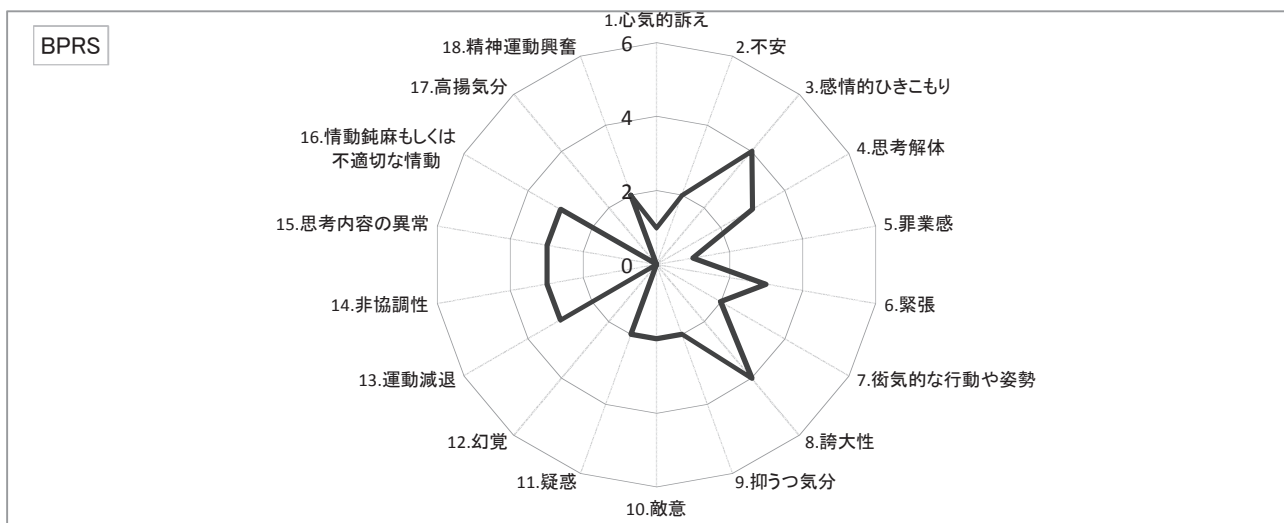
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	4: やや高度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	2: 軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6: 非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4: やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1: ごく軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	4: やや高度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	1: ごく軽度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1: ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	3: 中等度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係心慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	3: 中等度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	1: ごく軽度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3: 中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6: 非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	1: ごく軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3: 中等度



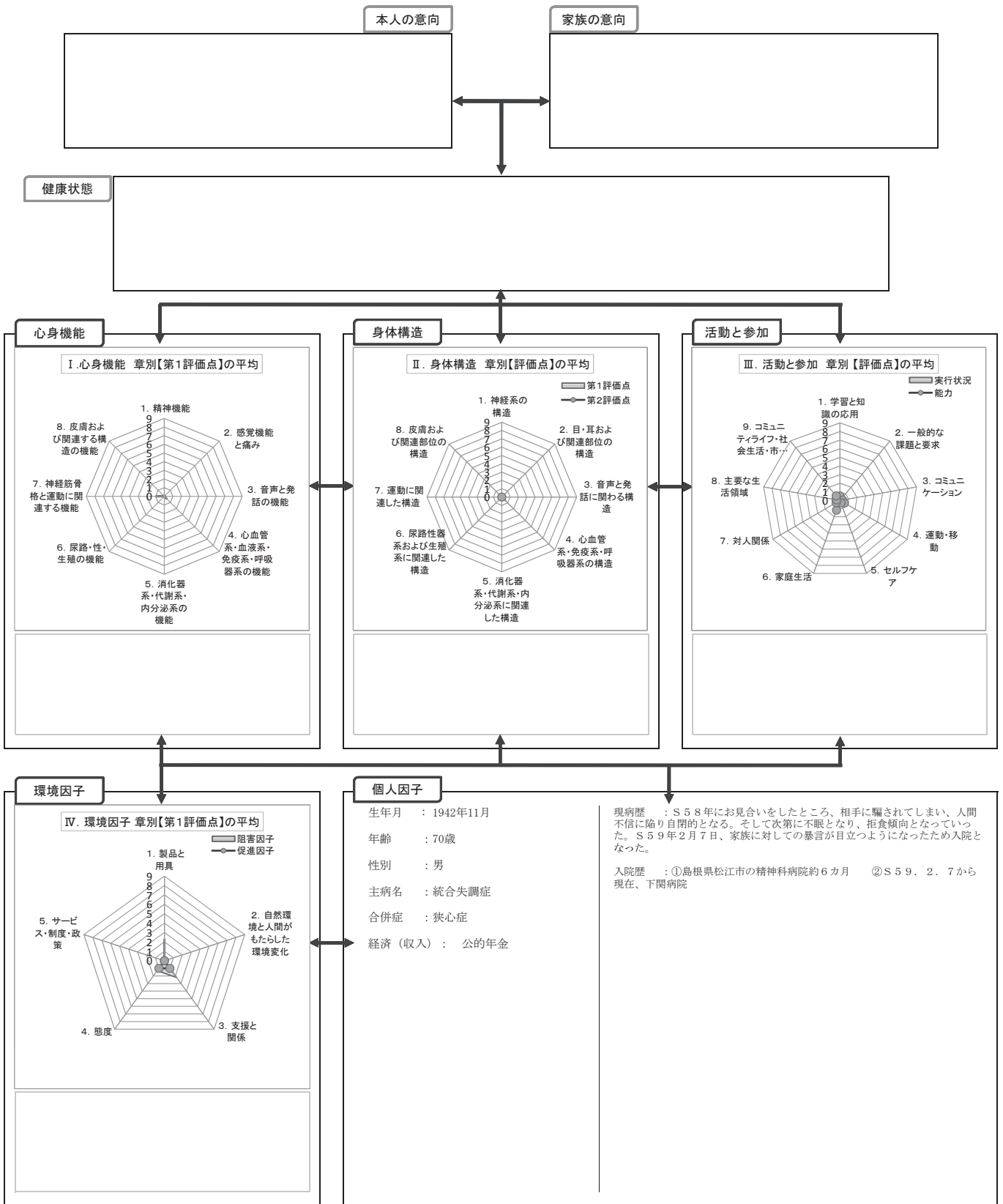


IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体健康状態についての関心の程度。身体健康状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	2:軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	4:やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	1:ごく軽度
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3:中等度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2:軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	4:やや高度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	2:軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2:軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	2:軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	3:中等度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	2:軽度

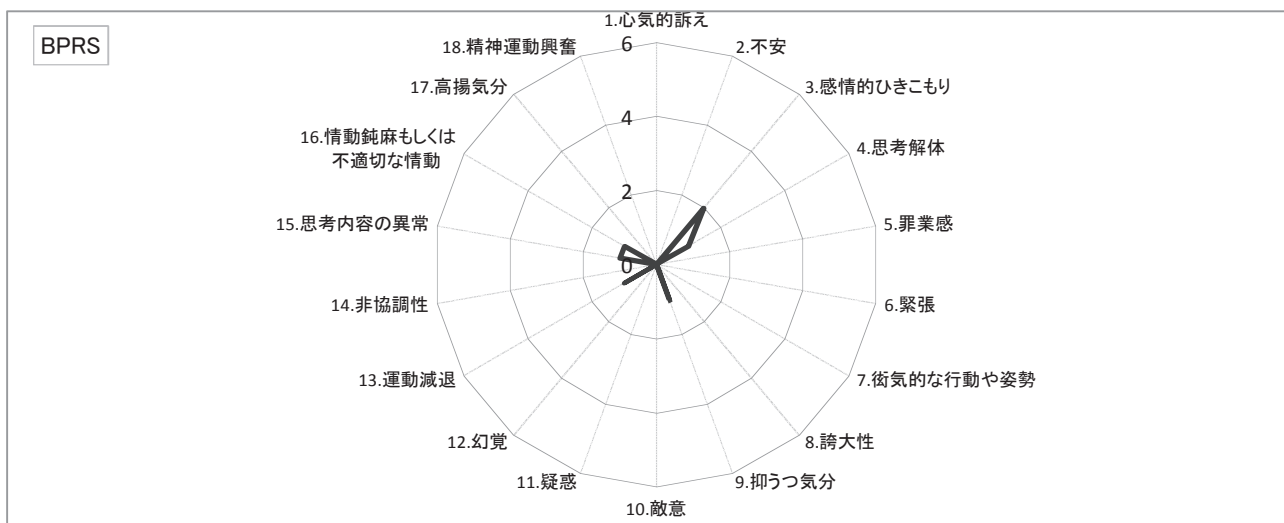


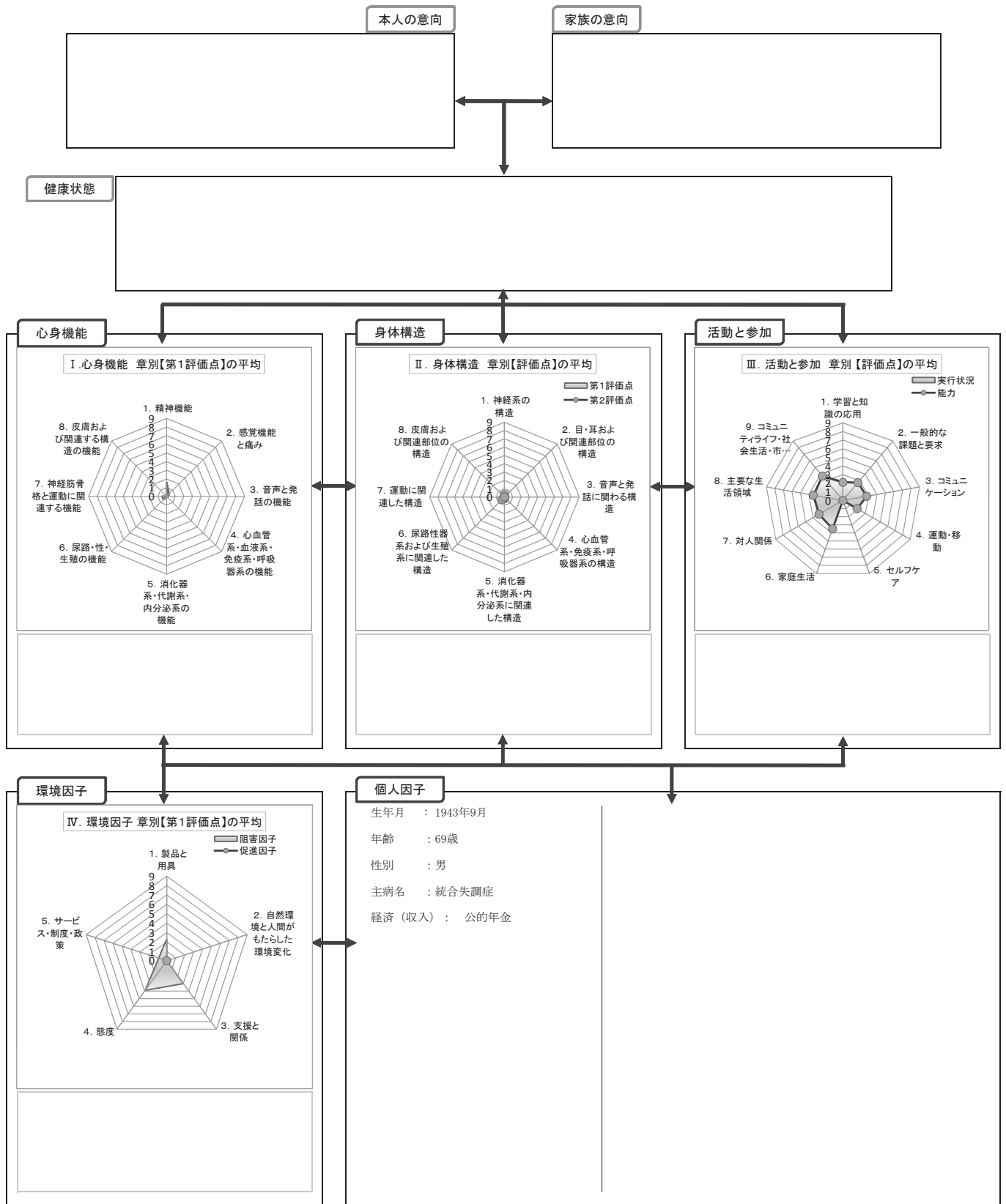




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

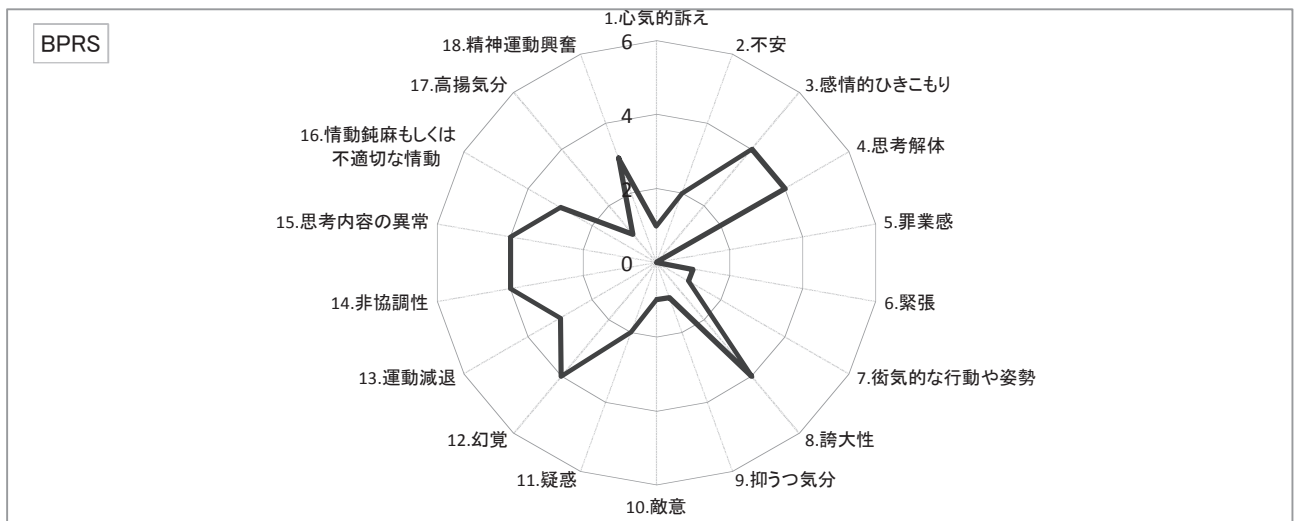
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2: 軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1: ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1: ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1: ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1: ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	1: ごく軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

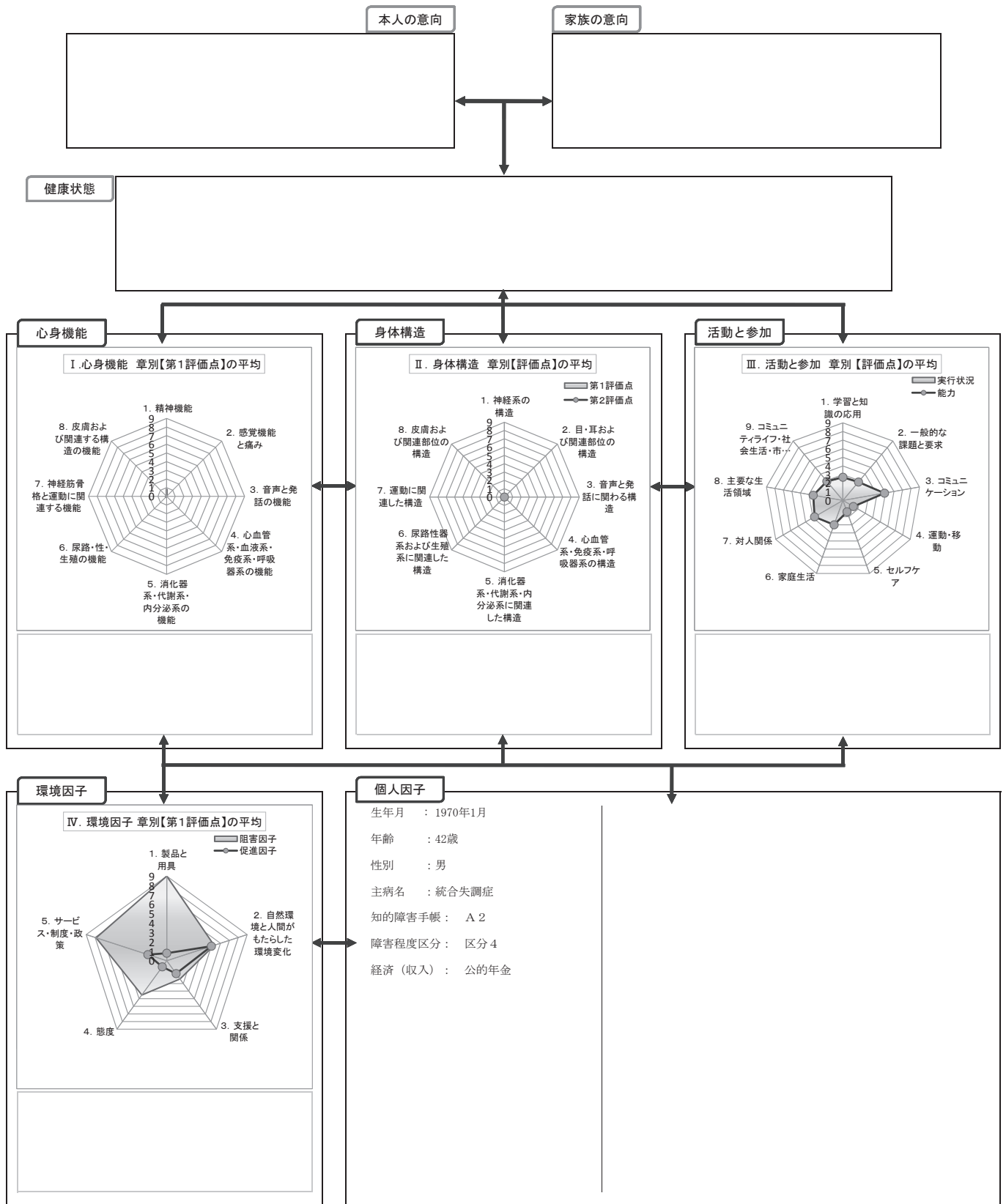




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

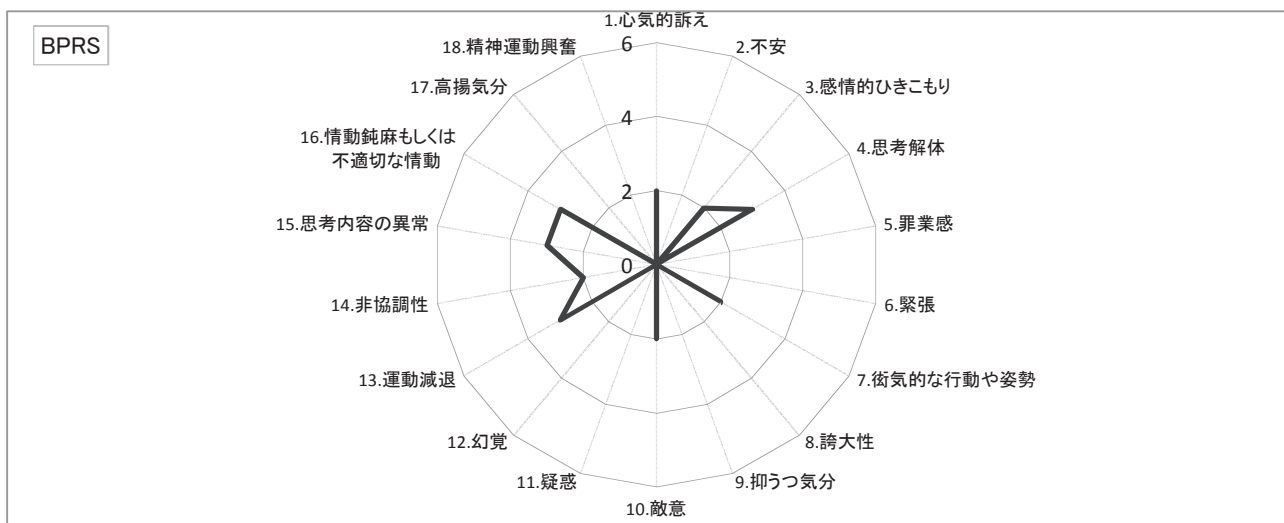
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	2:軽度
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	4:やや高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	4:やや高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	4:やや高度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	1:ごく軽度
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	1:ごく軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	2:軽度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	4:やや高度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	4:やや高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	4:やや高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	1:ごく軽度
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	3:中等度

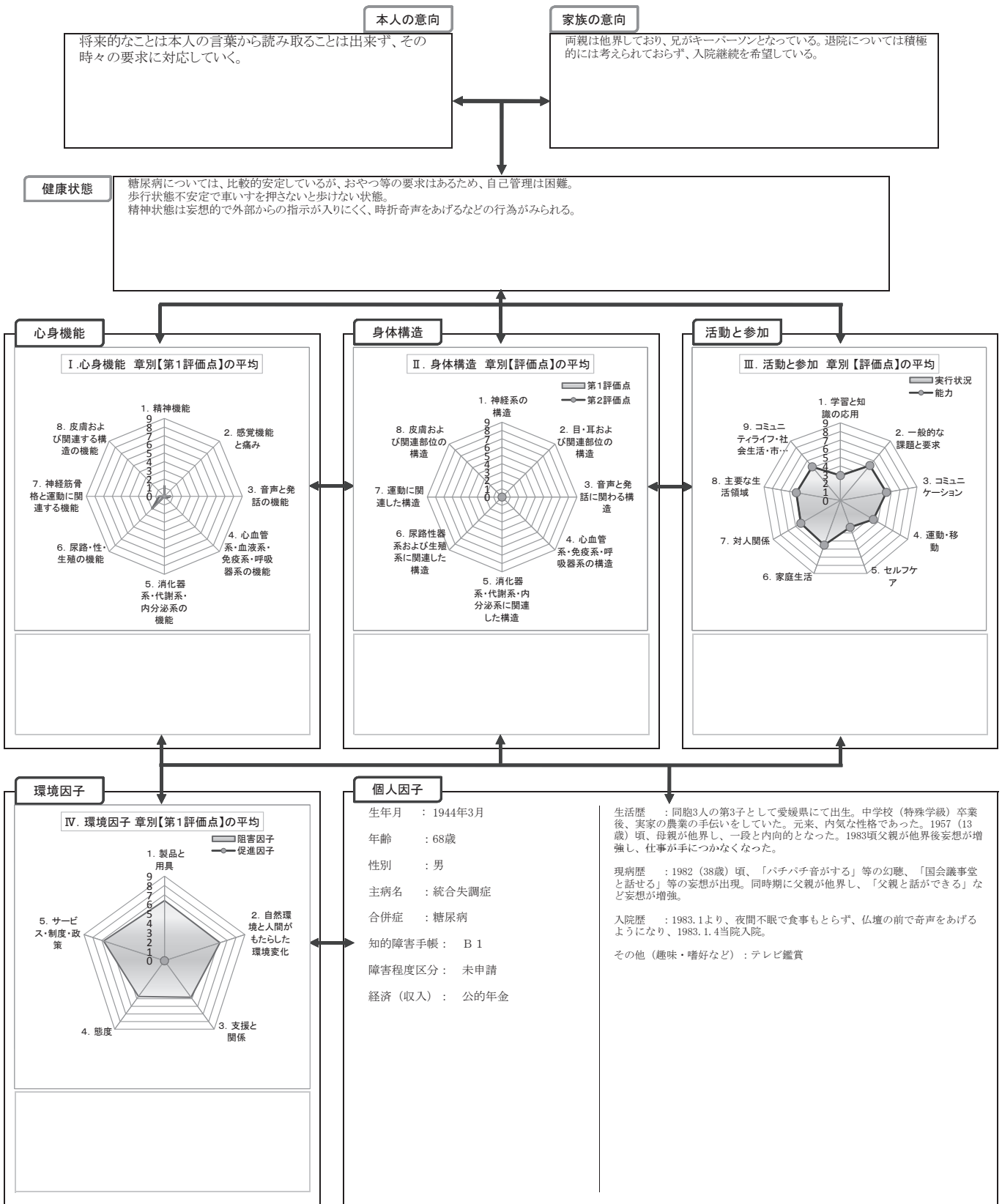




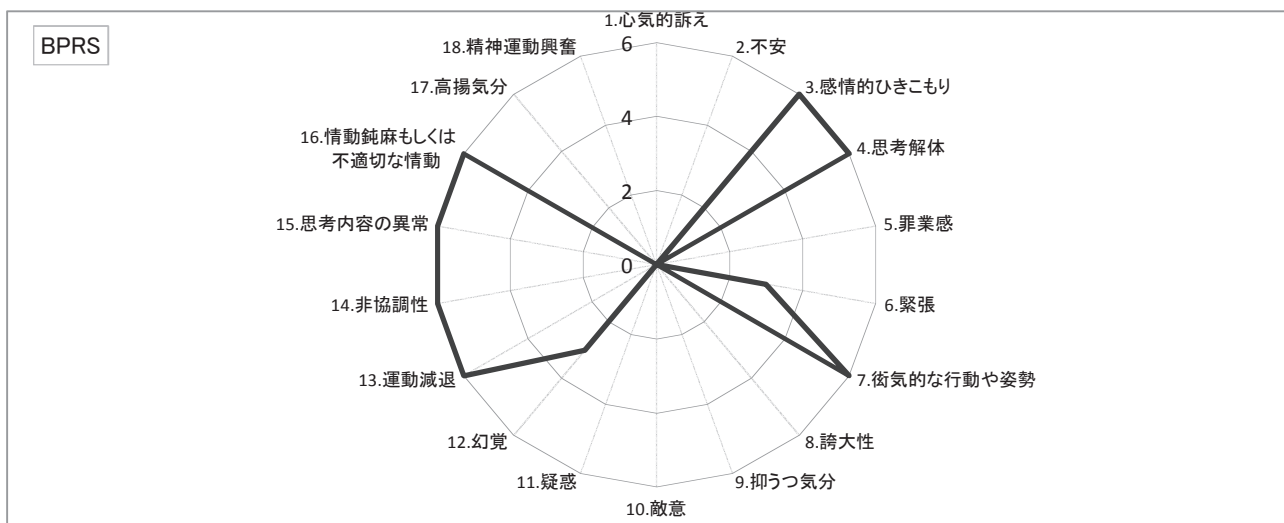
IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	2:軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	2:軽度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	3:中等度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	2:軽度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	2:軽度
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3:中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	2:軽度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3:中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	3:中等度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

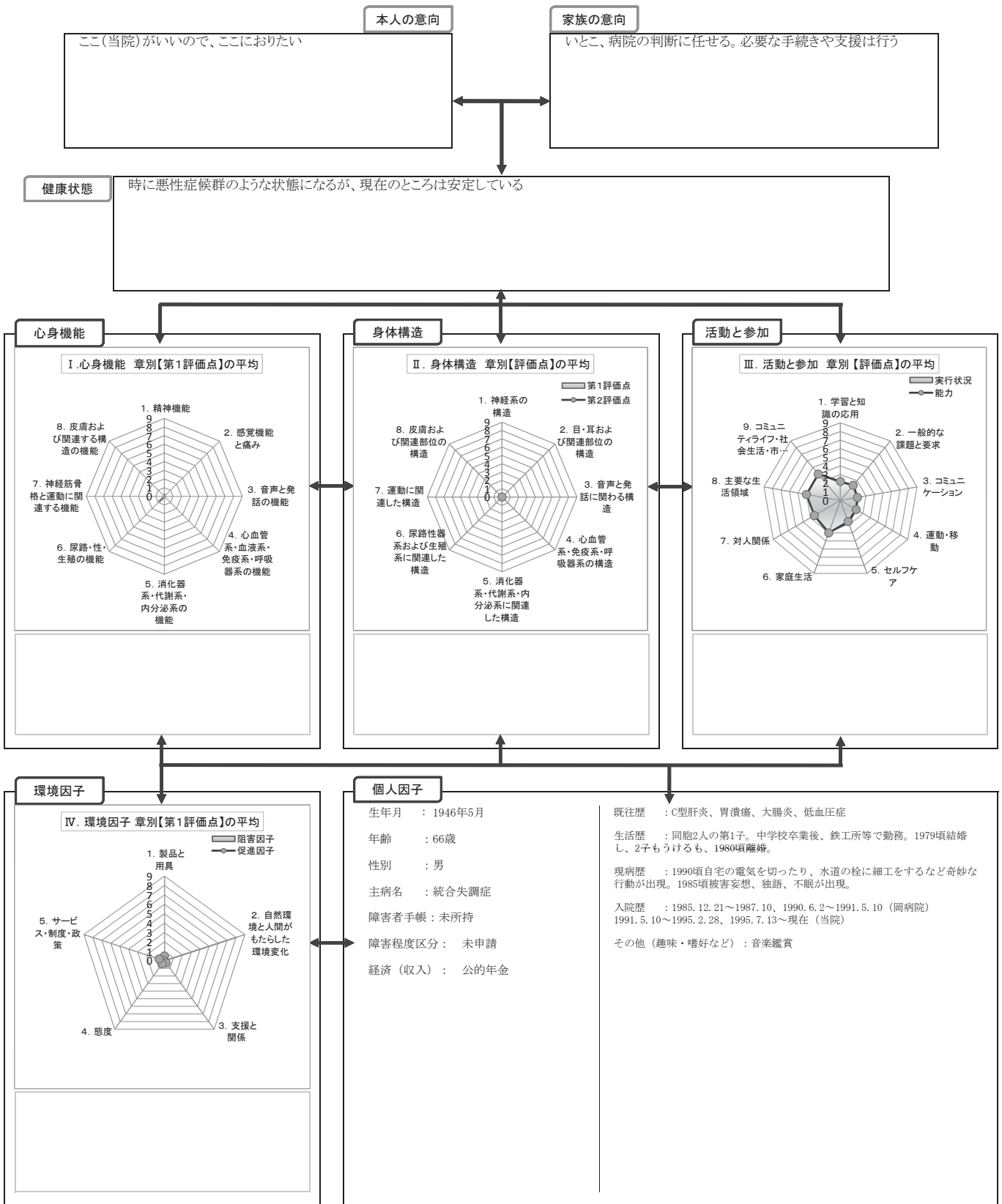




重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	6: 非常に高度
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	3: 中等度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	6: 非常に高度
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	3: 中等度
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	6: 非常に高度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	6: 非常に高度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	6: 非常に高度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし

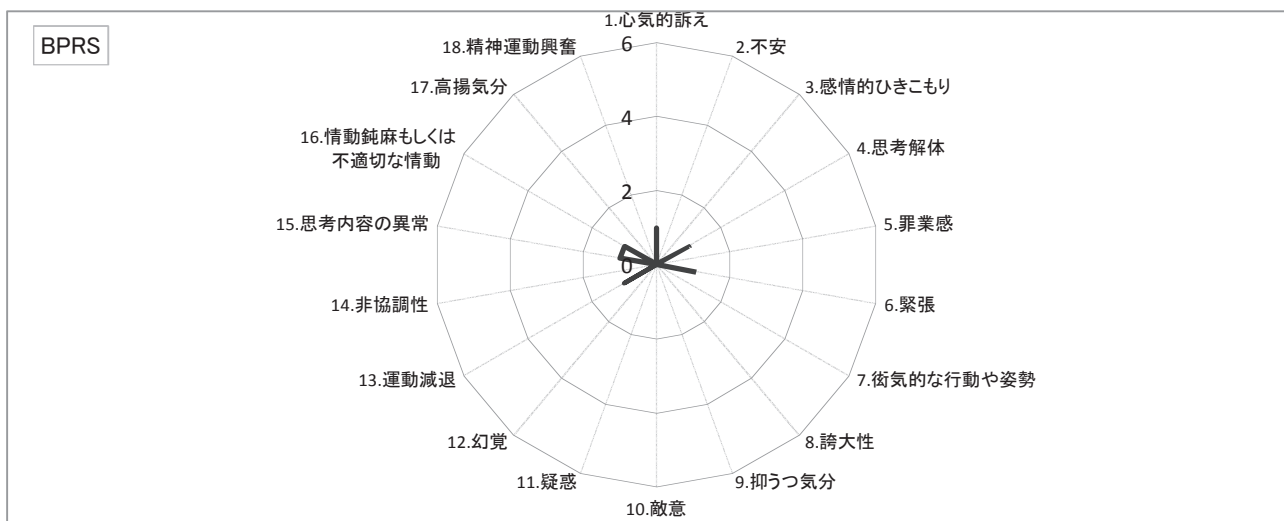


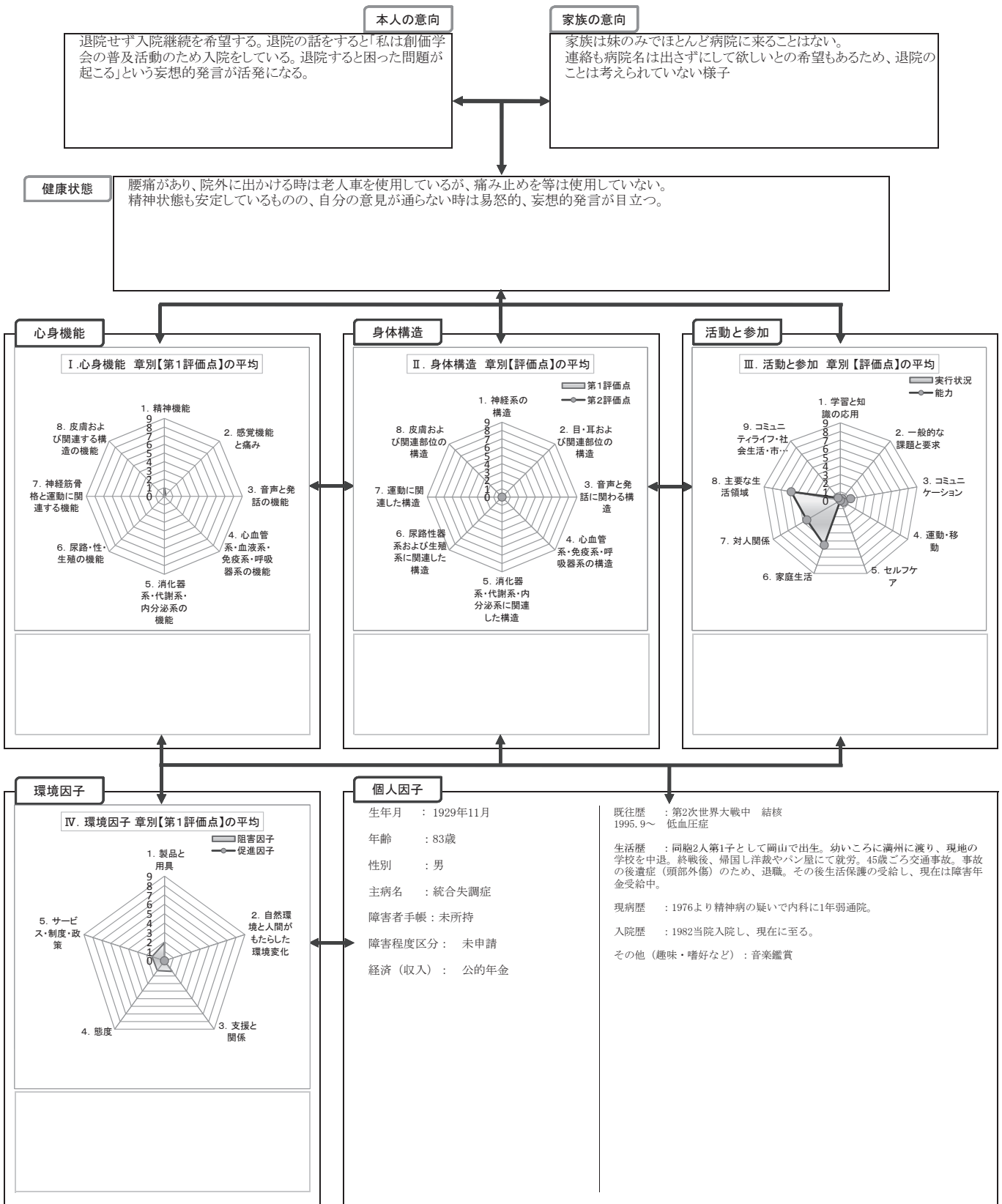




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

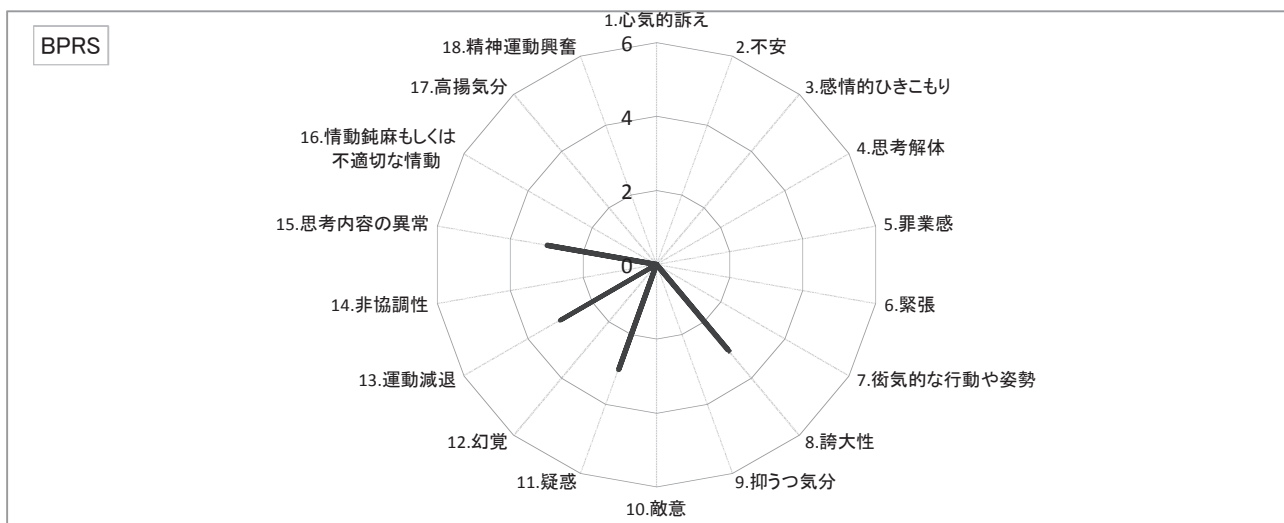
重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	1:ごく軽度
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0:症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0:症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0:症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	1:ごく軽度
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0:症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	0:症状なし
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0:症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0:症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	0:症状なし
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0:症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	1:ごく軽度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0:症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	1:ごく軽度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	1:ごく軽度
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0:症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0:症状なし

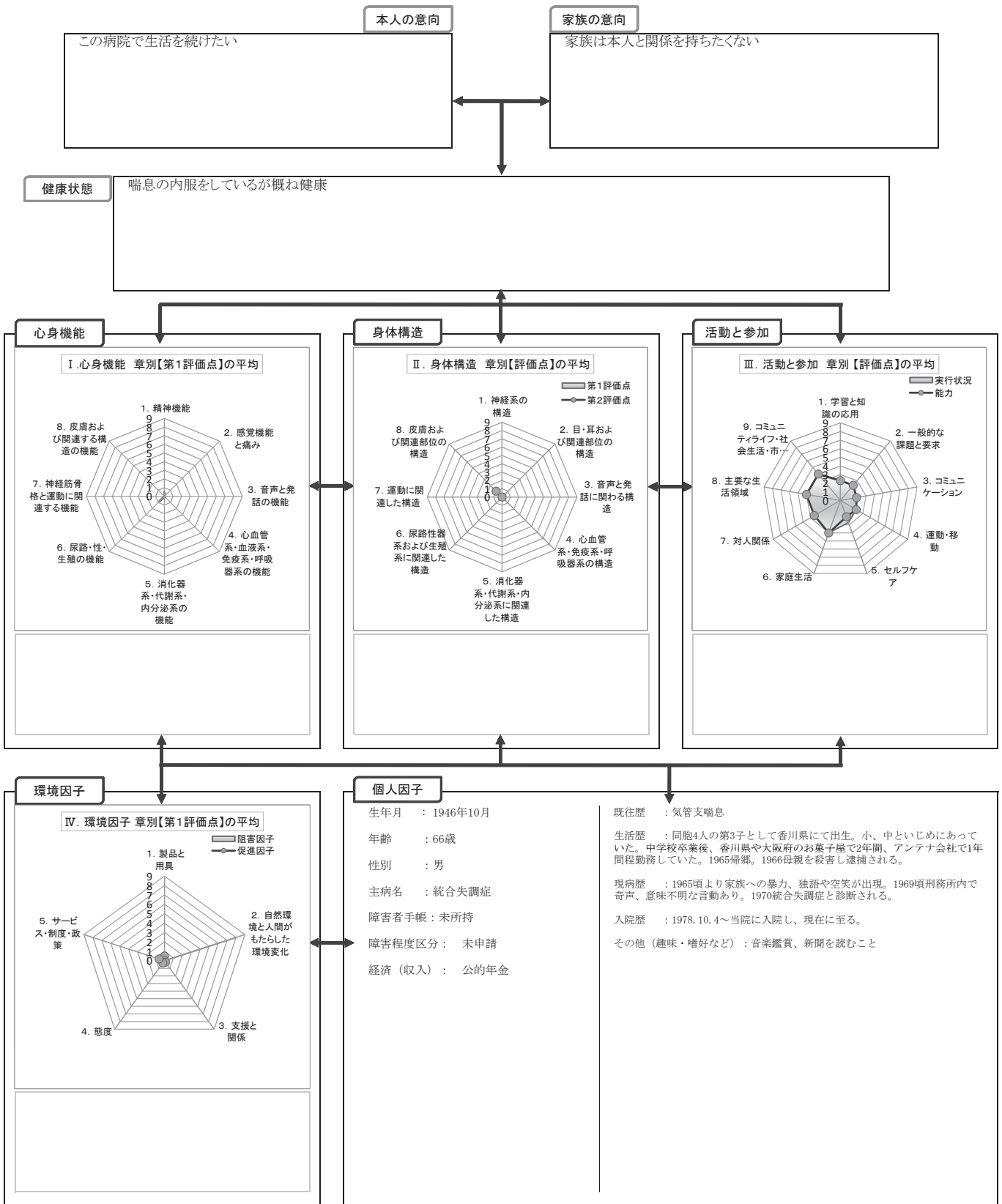




IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体の健康状態についての関心の程度。身体の状態に関する訴えに相当する臨床所見の有無に関わらず評価する。身体的原因があれば欄外に記入する。	0: 症状なし
2. 不安	心配、過度の懸念、不安、恐怖といった主観的体験。言語的訴えのみにもとづいて評価し、身体的徴候からは推論しない。(後者は緊張の項で評価する。)	0: 症状なし
3. 感情的ひきこもり	面接状況に対する関与の欠如。感情的接触を評価する。観察にもとづいてのみ評価する。(ここでは抑うつ、不安やその他の感情の表出に由来する接触障害は評価しない。)	0: 症状なし
4. 思考解体	思考形式の障害。主に観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
5. 罪業感	過去の行為についての呵責。自責・自己非難。罪を受けて当然だと思う。	0: 症状なし
6. 緊張	不安(激越にまでおよぶ)、緊張。過敏焦燥の身体的および運動機能における徴候。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
7. 衝動的な行動や姿勢	風変り、常同的、不適切。奇妙な行動および、態度。観察にもとづいての評価。	0: 症状なし
8. 誇大性	過大な自己評価、優越感、異常な才能、重要性、力量、富、使命。	3: 中等度
9. 抑うつ気分	悲哀、絶望、無力、悲観といった感情を訴える。重症度を評価する際には、被検者の表情や泣く様子を考慮に入れる。しかし罪業感、運動減退、心氣的訴えは考慮にいれない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者に対する敵意、軽べつ、憎悪の表情。面接場面外のイライラした、敵対的、攻撃的行為で患者自身により報告され、最近の病歴から知られているもの。面接者に対する敵意は非協調性の項で評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者に対し他者からの悪意や妨害または差別待遇があるという確信。自意識の増加や軽度の疑惑から関係念慮や迫害も走まで含める。ここには妄想気分も含める。	3: 中等度
12. 幻覚	外界からの刺激のない近く。錯覚や明瞭な精神的表象からは区別する。	0: 症状なし
13. 運動減退	運動および会話の速度の量的低下。患者の行動観察のみから評価する。	3: 中等度
14. 非協調性	面接者および面接状況に対する敵意と抵抗。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
15. 思考内容の異常	通常では見られない、奇妙、奇怪なく内容、すなわち強迫観念、優格観念、風変わりな確信や理論、妄想性の曲解、すべての妄想。この項では内容の非通常性についてのみ評価し、思考過程の解体の程度は評価しない。本面接中の非指示的部分および指示的部分ので得られた通常では見られない思考内容は、たとえば他の項(例、心氣的訴え、罪業感、誇大性、疑惑等)ですでに評価されていてもここで再び評価する。またここで離人症(妄想性のもも非妄想性のもも含める)、病的嫉妬、妊娠妄想、性的妄想、空想的妄想、破局妄想、影響妄想、思考吹入等の内容も評価する。	3: 中等度
16. 情動鈍麻もしくは不適切な情動	感情緊張の低下もしくは不適切、並びに清浄の感受性や興味、関心の明らかな欠如。無関心、無欲症。表現された感情がその状況や思考内容に対して不適切。観察にもとづく評価。	0: 症状なし
17. 高揚気分	健康感の増大から、多幸症と軽躁、さらに躁状態と恍惚状態まで。	0: 症状なし
18. 精神運動興奮	会話と駆動の料と出現率の増大。観察にもとづく評価。	0: 症状なし





IV. 環境因子 評価点 [9. 非該当]は、便宜上、阻害因子としてグラフ化しています

重症度を表す数字の中で患者の現在の状況を最もよく示す番号を選択して下さい。		選択肢
1. 心氣的訴え	身体 の健康状態 について の関心 の程度。身体 の健康状態 に関する 訴えに 相当する 臨床所見 の有無に 関わらず 評価する。身体 的 原因が あれば 欄外に 記入する。	2: 軽度
2. 不安	心配、過度 の懸念、不安、恐怖 といった 主観的 体験。言語 的 訴えのみ にもとづいて 評価し、身体 的 徴候 からは 推論 しない。(後者 は緊張 の項で 評価する。)	2: 軽度
3. 感情的 ひきこもり	面接 状況に 対する 関与 の欠如。感情 的 接触を 評価する。観察 にもとづいて のみ 評価する。(ここ には抑うつ、不安 やその 他 の感情 の表出に 由来する 接触障害 は 評価 しない。)	0: 症状なし
4. 思考 解体	思考 形式の 障害。主に 観察に もとづいて の評価。	4: やや 高度
5. 罪業 感	過去 の行為 について の呵責。自責・自己 非難。罪を 受けて 当然だ と思う。	5: 高度
6. 緊張	不安(激越 にまどおよぶ)、緊張、過敏 焦燥の 身体 的 および 運動機能 における 徴候。観察 にもとづいて の評価。	2: 軽度
7. 衝動的 な行動 や姿勢	風変り、常同 的、不適 切。奇妙 な行動 および、態度。観察 にもとづいて の評価。	1: ごく 軽度
8. 誇大 性	過大な 自己 評価、優越 感、異常 な才能、重要性、力量、富、使命。	0: 症状なし
9. 抑うつ 気分	悲哀、絶 望、無力、悲観 といった 感情を 訴える。重症 度を 評価する 際には、被 検者 の表情 や泣く 様子を 考慮に 入れる。しかし 罪業感、運動 減退、心 氣的 訴えは 考慮に 入れない。	0: 症状なし
10. 敵意	他者 に対する 敵意、軽べ つ、憎悪 の表情。面接 場面外 のイライラ した、敵 対的、攻撃 的 行為で 患者 自身に より報告 され、最近 の病歴 から 知られて いるもの。面接 者 に対する 敵意は 非協調 性 の項で 評価する。	0: 症状なし
11. 疑惑	患者 に対し 他者 から の悪意 や妨害 または 差別 待遇が ある といふ 確信。自意識 の増加 や軽度 の疑惑 から 関係 念慮 や 迫害も 走まで 含める。ここ には妄想 気分も 含める。	0: 症状なし
12. 幻覚	外界 から の刺激 のない 近く。錯覚 や明瞭 な精神 的 表象 から は 区別 する。	5: 高度
13. 運動 減退	運動 および 会話 の速度 の量的 低下。患者 の行動 観察のみ から 評価する。	1: ごく 軽度
14. 非協調 性	面接 者 および 面接 状況に 対する 敵意 と抵抗。観察 にもとづいて の評価。	0: 症状なし
15. 思考 内容 の異常	通常 では 見られ ない、奇妙、奇怪 なしく 内容、すなわ ち強迫 観念、優格 観念、風 変わりな 確信 や理論、妄想 性 の曲解、すべ ての妄想。この 項では 内容 の非通常 性について のみ 評価し、思考 過程 の解体 の程度 は 評価 しない。本面接 中 の非指示 的 部分 および 指示 的 部分 ので得られ た通常 では 見られ ない 思考 内容 は、たとえ 他 の項(例、心 氣的 訴え、罪業 感、誇大 性、疑惑 等)です で 評価 されて いても ここで 再び 評価 する。また ここで 離人 症(妄想 性 のもの も非妄想 性 のもの も含める)、病的 嫉妬、妊 娠妄想、性 的 妄想、空 想的 妄想、破 局妄想、影 響妄想、思 考吹入 等 の内容 も 評価 する。	5: 高度
16. 情動 鈍麻 もしくは 不適 切な 情動	感情 緊張 の低下 もしくは 不適 切、並び に清浄 の感受 性 や興味、関 心 の明らかな 欠如。無関 心、無欲 症。表現 され た感情 がその 状況 や 思考 内容に 対して 不適 切。観察 にもとづいて の評価。	1: ごく 軽度
17. 高揚 気分	健康 感 の増大 から、多幸 症 と躁、さら に躁状 態 と恍惚 状態 まで。	0: 症状なし
18. 精神 運動 興奮	会話 と駆動 の料 と出現 率 の増大。観察 にもとづいて の評価。	1: ごく 軽度

